

第2次十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針 令和元年度説明会の概要（11月実施分）

【十日町地域】

日時、会場等		主な意見等
下条地区	日時	11月5日（火） 19：00～20：25
	会場	下条小学校多目的ホール
	対象	下条小・中学校 ・学校運営協議会 ・保護者（未就学児含む）
	人数	50人
		<p>① 十日町中学校区、中条中学校区の人たちからどんな意見が出ているか。 [答] 東小学校区では、今まで新座地区は十日町中学校、大井田地区は中条中学校と進路が分かれていたが、この方針では東小学校の全員が十日町中学校へ進学する計画とした。大井田地区も新座地区も元々は旧中条村であり、十日町中学校が昭和22年に出来てから、新座地区の子どもたちは十日町中学校に進学していた。新座小学校と大井田小学校の老朽化などの課題により、新しく東小学校を建設してから、子どもたちの進路が分かれてしまった。中条中学校には互親会という学校後援会組織があり、大井田地区も中条中学校を支えてきたことから、大井田の子どもたちを十日町中学校へという計画は、受け入れ難いという声を聞いている。一方保護者の皆さんからは、十日町中学校で良いという声も聞いている。まず保護者の皆さんの声をまとめて、地域の皆さんからご了解をいただけるよう努めたい。中条地区については、飛渡第一小学校が複式学級校であり、平成21年度の第1次方針でも複式解消を地域に説明申し上げたが、小学校を残したいとのことで、地域組織が学校を支えて活動している。児童数が一時期10人まで減ったけれども学校を存続したいとのことであった。当時から地域に大きな反対があれば、教育委員会は統合を進められないということだったが、この度、改めて飛渡第一小学校の統合を提案した。未就学児の保護者から複式学級でない学校へ通わせたいという声が強く、在学している子どもたちの保護者は、今のままで良いという声が強いようで、飛渡第一小学校については難しい面があると感じる。中条中学校は、下条中学校と川西中学校と統合する再編計画であるが、施設規模では下条中学校の受け入れはできる。川西中学校は、1学年2学級の規模を暫く維持することと、中条中学校の施設規模ではすぐには受け止めきれない。令和10年度を目標にしているのは、お互いの生徒数が減らないと中条中には統合できない実態がある。中条中学校での説明会では、吉田、松代、川西を含めた川西地域に中学校を残すべきではないかという声を聞いている。川を渡ってまで通学させるのは如何なものかという意見を聞いている。</p> <p>② 今の説明では、もしかすると川西中の統合はないということか。 [答] 統合がないということではない。この方針については、今の段階で教育委員会として一番良い考え方と思っており、この方針の通り進めたいと考えている。説明会が終わった段階で、小学校は1学年1学級以上、中学校は1学年2学級以上の基準の中でより良いアイデアがあれば、真剣に検討しなければならないと考えている。絶対にこの方針のとおりに進めるということではない。</p> <p>③ 国・県が示す学校の適正規模のところで、小規模校のメリット・デメリットについて書いてあるが、統合事例のところにメリットしか書いてない。統合した際にはデメリットがないのか。</p>

[答] 方針の14-15ページの「小規模校のメリット、デメリット、統合事例から見える効果」については、記載のとおり文部科学省の「公立小・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」から抜粋したものである。統合のデメリットという記述が無かったため、記載していないが、何かしらのデメリットがあるかも知れない。あったとしても教育委員会として学校を全力で支えて、統合により悪い事象が出ないように努力しなければならないと考えている。統合前には交流活動を行っており、統合したあと新しい学級の中で子どもたちの友達関係が築けるような活動をしっかり取り組まなくてはならないと考えている。

④ 統合した後は極端に人数が増えるが、小規模校から通っていた子どもが、大人数になることで色々な不安を抱え、バランスを崩した場合の対応は考えているか。

[答] 今までの小学校の統合の事例では、子どもたちに統合による悪い影響があったとは、校長からは聞いていない。倉俣小学校が田沢小学校に統合した後、子どもの声として友達が増えてよかったと校長を通じて聞いた。統合が決まった段階から、交流活動をしっかり取り組んできたという経過があると思う。

⑤ 方針を聞く限りでは、子どもたちには良い方向だと思う。下条に関しては、小学校の校舎を作るときに市あるいは教育委員会から、小中一貫教育のモデル校としての校舎を作ってほしいということで、保護者を交えて建設委員会を立ち上げてこの校舎を作った。その当時にも将来的な人数把握ができていたにも拘らず、下条中学校を引き離して中条へ統合し、小学校は下条と中条に残った中で、小中一貫教育をどのように進めたらいいのか教育委員会の考えはあるか。

[答] 下条小学校を建設したのは、平成25年の12月竣工である。当時、地元の皆さんは校舎建設委員会など一生懸命に取り組みまれて有難く思った。下条小、下条中学校の子どもたちが、ヒカリという小中一貫教育の歌を作ったという取り組みも非常に有難いと思う。今回下条中学校が統合対象になったということについては、昨年7月から学区適正化検討委員会で、市民の皆さんが検討された中で初めて示された。私は当初、中学校は大きな取り組みまでは想像していなかったが、検討委員会の皆さんは、統合したと思っただけで統合が課題になるのはよろしくない、計画期間の先まで見て考えてほしいという気持ちがまとまったことである。教育委員会が主導的に考えたのではなく、委員の皆さんが発案され、最終的に今年の3月11日に答申をいただいたものである。検討委員会の皆さんは、令和5年度を中学校の統合目標にしたが、中間報告として議会に説明したものが報道され、地域の皆さんを不安にさせてしまった経過がある。特に松代地域の皆さんは、すぐに振興会として反対署名を集められた。そのようなこともあり、ある程度の時間が必要なのではないかということで、答申をいただいた後、教育委員会では市民理解のためにはもう少し時間が必要であると考え、目標年度を令和10年度とした。統合した場合の小中一貫教育をどうするのかということ、もうひとつはコミュニティ・スクールの関係に影響がある。例えば今は、拡大中学校区がある。東小学校の子どもたちが卒業し、十日町中学校と中条中学校に分かれて進学するということから、小中一貫教育をどうするかという問題があった。このため2つの中学校と十日町小、中条小、飛渡第一小、東小を含めた大きなエリアの中で、小中一貫教育を行うという取り組みをしている。コミュニティ・スクールについても、

(下条地区)		<p>それぞれのエリアの中で取り組みをしている。仮に下条中学校が中条中学校に統合することになれば、新しい統合中学校に中条小、飛渡第一小、下条小を含めた中での小中一貫教育を考えなければならない。また、下条地区と中条地区をエリアにしたコミュニティ・スクールや地域連携を構築しなければならないと考えている。状況を見ながら、子どもたちがより活躍でき、可能性を広げるためにどうしたらいいかということで、ある程度の人数の中で、切磋琢磨する姿が必要ではないかと感じている。</p> <p>⑥ 聞いたところでは、難しい小中一貫教育になるような気がする。下条はやっとうまくいき始めて、中一ギャップがないという話も出ていた。自分には子どもではなく孫がお世話になると思うが、ぜひ若い方からの意見を吸い上げて、一番良い形になればと思っている。ただし、下条はそういう思いでこの学校を作った。 [答] この地域の小中一貫教育の象徴であるヒカリの歌が、統合した新しい学校の小中一貫教育を讃える歌として文化が引き継がれると有難い。</p> <p>⑦ 9月30日に下条中学校の体育館で説明会があった際に、検討委員会に下条地区の方が入っていないという質問があり、下条地区はもともと該当しなかったので入っていないと回答されたのを覚えているか。 [答] 学区適正化検討委員会のメンバーが方針の29ページに載っている。中学校の1学年2学級以上という基準については、議論の結果そうなったということで、当初はそのような基準を設けるとは想定していなかったものである。後で解ったことだが、過去にこの地域に住まわれていた方が委員の中に居たので、決してこの地域を知らない方だけで決めたのではないと思っている。</p> <p>⑧ 卒業生の子どもたちの声として伝えたい。自分の母校がなくなるというのはすごく寂しいということと、オレンジ色が自分たちの色なので、それを無くさないようにしてほしいと先生に伝えて卒業した子どもがいたことを分かってほしいと思う。 [答] 母校がなくなる、自分が学んだ学校がなくなるという寂しさは、そのとおりでと思う。今まで色々な学校が統合してきたが、地域の皆さんが苦渋の決断の中で決定してきたと感じている。せめて学校があった印だけでも残したいということで、校舎跡地に石碑を建て、また思い出となる記念誌を作るなど、閉校委員会の皆さんが取り組みをしてきた。そういった寂しい気持ちの裏返しではないかと思う。</p> <p>⑨ 説明会に参加できなかった保護者が沢山居ると思うので、そういう保護者の意見を聞き取る機会を設けてもらえるのか。 [答] 教育委員会としては、皆さんの意見を随時お聞きしたいと思っており、担当は教育総務課になる。いつでも連絡してほしい。また、市民向け説明会を11月13日(水)午後7時から段十ろうで行う。今までの説明会を聞きそびれた方などが、来ていただけると有難い。</p> <p>⑩ 質疑応答で発言するのは勇気が必要なので、そういった方はどのように意見を述べたらいいのか。 [答] 大勢の中で自分の気持ちを表すというのは、とても勇気があることだと思う。例えばある地域では、未就学児の保護者だけで話を聞き、意見交換したいという要請があり、説明に伺った。そういう要望に応じて、都合を合わせて話をさせていただきたいと考えている。</p>
--------	--	--

⑪ 方針の決定は、すごく難しいことだと思うし、最終決定はどういう形で決まるのか。
[答] 方針は、5月30日に教育委員会として一旦決定した。教育委員が4人と私（教育長）が協議した結果である。教育委員の中にも果たしてこれで良いのかという思いがあり、反対が2人、賛成が3人ということで最終決定したものである。これについては、地域の皆さんが思っている状態が、教育委員の中にも採決結果に出たものと思う。説明会については、丁寧な説明を心がけたいと思っている。この方針については、教育委員会で決定したものであり、出来るだけこの方針に沿って進めたいが、決定したとおりに全て行うという考え方ではなく、地域の皆さんのご理解がなければ進められないと思っている。この説明会は、今年度末頃まで繰り返されると思っており、より良いアイデアがあればしっかりと耳を傾けたい。来春頃には総括のような検討を行いたい。

⑫ 最終的に統合を決定するのは、地域の皆さんの声ではなく、教育委員会が決定することになるのか。
[答] 個別の学校の統合については、今までの例では、地域の代表者やPTA会長から統合したいという統合要望書をいただいてから、教育委員会が地域自治組織に公の施設である学校を統合して良いか、閉校してよいかという意見をいただくことになる。地域自治組織の理解がなければ、教育委員会としてその先には動けないものである。理解を得た段階で、市長が学校設置条例の改正を市議会に諮り、議員の過半数の賛成がなければ進められないということである。方針そのものについては、教育委員会が定めたものである。

⑬ 少子化が全国的に問題になっているが、高校を卒業した若い人たちの働く場が無いことで、大学へいってから探せばいいといっても仕事がない。子どもたちはこの地域が好きだと思う。子どもが減るからこうしようではなく、地域をどうやって盛り上げていけるか。例えば、若い人たちが働ける場を広げてもらうように企業誘致などを行い、これ以上減らさないような政策に力を入れてほしい。
[答] 地域に子どもたちが減らずに、維持または増える傾向があれば、学校統合を検討しなくても良い状態になる。教育委員会が、産業政策課、産業部門と連携した取り組みに、9月に行われた「まちの産業発見塾」がある。クロスステンに市内企業32社が集まり、子どもたちに理解してもらおう機会となっている。今年は、中学2年生全員と高校1年生全員からクロスステンに来ていただき、市内にはこんな企業があるという研修をした。十日町総合高校については、以前からキャリア教育としてこの地域の人材となるように、学校教育の中で取り組みを行っていた。その成果もあって、十日町総合高校では県外に流出する子どもたちの数が減ってきており、市内あるいは県内に留まって就職する子どもたちが増えてきたという実態がある。「まちの産業発見塾」については、地域の人材を育てる大事な事業である。特にこの地域は、介護や医療、また建設の現場では人手不足の声があるので、この地域に留まって、あるいは東京の学校で学んだ後でも、Uターンしてこの地域を支える人材になっていただくよう、教育委員会としてもしっかり取り組んでいかなければならない。

十日町地区	日時	11月6日(水) 19:00~20:10	<p>① 感想として、市が色々と少子化対策をしている中で、学校を減らすという方針がでてきて、矛盾している感じを受けた。</p> <p>[答] 少子化対策として、雇用の場の創設については市民アンケートでも要望をいただいております、市としても重要課題として取り組んでいる。子育て支援策も、子どもを生み育てやすい環境を整えるため、子ども医療費の無料化や保育料の軽減など県下トップレベルの対策を講じている。そのような中でも、子どもの人数は減少傾向にあることから、このような方針を示させていただいた。</p> <p>② 塾では、少人数のため質問もしやすく、勉強がはかどっているのではないかと思いますので、小規模の方が、学習に関してはより充実した教育ができるのではないかと。教員の配置に限られるとあるが、単純に、教員を配置すれば解決できると考えるが、教員の十分な配置が出来ない理由は何か。</p> <p>[答] 確かに少人数であれば、学習面では塾のような取組みができるかもしれないが、当地域は教員確保困難地域で、地元の中堅教員が少なく、経験の浅い教員が多いことが悩みである。教員は、県が国からの経費支援を受ける中で、定められた基準に基づき、県が配置している。国が示す学校の標準規模は12から18学級としており、ある程度の規模であれば多くの教員が配置され、ベテランと若手教員がチームを組むなどバランスのとれた配置がしやすくなる。塾ではベテランの先生が教えることが多いのかもしれないが、学校は学級数が少ないと教員数が限られ、安定的な学級運営ができにくいという悩みがあり、塾とは違う状況があることもご理解いただきたい。学校規模を整えることで、学級運営の安定化を図っていきたい。</p> <p>③ 実際、教員は不足しているのか。また、国で予算をつけてくれれば、少人数学級は可能か。</p> <p>[答] 不足感はある。昨年の新潟県の教員採用の倍率もかなり下がっている中で、当地域でも、今までは臨時採用の産休代替や講師の人材はあったが、最近では、その確保に大変難儀している状況となっている。国の配置基準、予算付けについては、子どもの数が減ってきている状況の中で、特別支援教育に対しては、教員配置は手厚い対応となっているが、普通学級における教員の増加は難しいところであると感じている。市としては引き続き、教員確保を県に要望していきたい。</p> <p>④ 川西中学校を統合先とすることはしないのか。</p> <p>[答] 川西中学校は、普通教室を6教室として4・5年前に改築し、しばらくは6学級が続くため、たとえば吉田中を受け入れるには教室数が不足である。また、方針で示している中条中学校への統合も、人数、教室数の関係で、令和10年頃にならないと難しいのではないかと考えている。現段階では、この方針が最良として説明会を開催しているが、説明会を繰り返していく中で、方針基準に合った、より良いアイデアがあればお聞かせいただき、教育委員会としても検討していかなければならないと考えている。この方針は、教育委員会が独断的に進められるものではなく、地域の皆さんの同意をいただいた中で進めることができるものである。</p> <p>⑤ 東小学校区での説明会の様子はどうであったか。</p> <p>[答] 東小学校の現在の保護者向けに説明を行ったもので、地域の皆さんへの説明はまだである。東小学校</p>
	会場	十日町小学校フォーラムセンター	
	対象	十日町小・中学校 ・学校運営協議会 ・保護者	
	人数	7人	

<p>(十日町地区)</p>			<p>は、40 数年前に新座小学校と大井田小学校が統合したが、昭和 22 年頃に十日町中学校が新座地区内にできたことから、新座地区の子は十日町中へ、大井田地区の子はそれまでどおり、中条中へ分かれて進学している。大井田地区の皆さんは、中条中の学校後援会である「互親会」という組織で、ずっと中条中を支えてきたのに、今回の方針で、いきなり十日町中に進学先が変わることに対して納得できないというのが素直な心情であろうと思っている。そのため地域の皆さんのご理解をいただくには、少し時間がかかるのではないかとと思っている。保護者の声としては、説明会場で、はっきりと早く進めてほしいという意思が確認できたという訳ではなく、教育委員会として保護者の声をどのようにまとめ、地域のご理解をいただくか、課題であると思っている。また、説明会では、早く進めてほしい、学校を選択することはできないのか、体操着等の購入への補助はあるのか、地域との話し合いが難しいのではないかといったご意見等があり、全体としては、再編反対という雰囲気は低かったように感じた。今後の動きで、再編見込みや再編方法に方向性が出てくると、さらに具体的なお質問等が出てくると思う。東小 P T A の役員さんには、保護者の皆さんのご意向をお聞きいただきたい旨とその集約について、お願いさせていただいた。</p>
<p>全市及び十日町地区</p>	<p>日時</p>	<p>11 月 13 日 (水) 19 : 00 ~ 21 : 20</p>	<p>① 中里地域の説明会では、中里中学校が水沢中学校に統合されると、通学時間が大変ということと、水沢中学校が土砂災害警戒区域に入っていること。水沢中学校の借地料が 800 万円以上かかっており、中里中学校は市の土地であるため、中里中学校へ統合すれば経費削減されること。土砂災害警戒区域の中に校舎があることに驚いているが、その件と借地料の件を学区適正化検討委員会に説明していないということであった。このように、他の地域での説明会でどのような意見があったのか披露することは無いのか。 [答] 中里中学校が水沢中学校へ統合すると、スクールバス送迎の時間が今まで以上にかかるのは確かである。スクールバスのルートなどで、子どもたちの負担にならないような検討をしなければならないと回答したと思う。土砂災害警戒区域の質問は、水沢中学校については避難所に指定されているので、その評価をまだ防災安全課に確認していない。現実として水沢中は避難所に指定されていることも踏まえながら検討していきたい。水沢中学校には借地があり、年間 800 万円程度かかっている。水沢中のグラウンドが広大であるので、一部返還できないか、また買収ができないか、検討したいと思う。水沢中学校が設置されるには、借地という地主さん方の大きな協力があって、今まで教育活動が展開できたので、感謝を申し上げたい。しかし、800 万円の借地については、これからよく考えなければならないと思う。検討委員会の皆様には、借地の話はしていない。純粋に子どもたちの学ぶ環境がどうであるか、どういうものが一番望ましいものであるかという観点で検討していただいた。説明会の概要については、市ホームページの教育委員会のページに、7 月分、8 月分、9 月分を掲示している。また、各地区公民館及び各支所には、閲覧用を配置してあるので、確認いただけるようになっている。</p> <p>② 水沢中学校は、災害が起こりえる場所にあるが、避難所に指定されている。そもそも避難所に指定されているのはおかしいのではないかと。中里中学校から水沢中学校への統合ありきで話を進めるもので、ただ説明</p>
<p>会場</p>	<p>段十ろう</p>		
<p>対象</p>	<p>○市全域対象 ○川治小、西小、南中学校 ・学校運営協議会 ・保護者</p>		
<p>人数</p>	<p>37 人</p>		

するだけなら、この説明会の意味は無いものではないか。

[答] 土砂災害警戒区域の範囲がどの程度なのかにより、避難所に指定されているものと予想するが、詳細を防災安全課に確認したい。説明会の中で色々な意見をいただいております、耳を傾けるべき意見は、しっかりと耳を傾け、来春頃には説明会を総括し、今後どのようにするか検討したい。教育委員会は、この方針が最善であると考えているが、より良いアイデアがあれば検討する余地がある。

③ 検討委員会に対して情報が充分ではない中で判断されたのであれば、不十分なものと懸念を持った。また、資料の中で概念的な説明が多く、最も重要な予算部分の説明が全く無いことが、資料の説明不足であると感じている。例えば、教員だけでなく非常勤講師、あるいは教員免許を持たない方が教育に関わっていることは悪いことではないと思うが、そういう方々にも欠員が生じているのはなぜなのか、報酬が低いからなのか、人材が地域全体で少ないのか、教育委員会で人材の情報をまとめていないのか、その説明が充分ではない。人口減少が止められず、最終的に小学校が1校、中学校が1校になるのか。子育てに関わる保護者にとっては、負担になり得る状況が考えられる。逆に、統合ばかりを考えずに、地域にある施設と人材を活用する形で教育を維持できないのか。そのような予算に関する資料を拝読できないか。

[答] 教員の人件費については、新潟県が国の支援を得て、各市町村そして各学校へ正規の教員及び非常勤講師を配置している。また免許外の教科を教えることについては、学校に配置されている国語の教員が、体育を教えるなど、県から特別な許可を得て行うという仕組みである。市の予算では、教育支援員を配置している。教育支援員は、教員の資格は無くとも、特別な支援が必要な子どもの見守りのために配置し、教員の教育活動を補助している。県の人件費については、当方に資料が無いため提示できない。

④ 南中学校区の再編資料で、再編すると学級数が減るが、教員数も減ってしまうのではないかと。教員が少なくて済むと捉えられると思う。人件費を安く、国の方針ということが見え隠れする。

[答] 国は、学校の適正規模について、小学校、中学校共に12学級から18学級と言っている。小学校では1学年2学級から3学級、中学校では1学年4学級から6学級を標準としている。当市の悩みとしては、方針の12ページにある教員構成の状況がある。地元の教員がどれだけ居るかという表であるが、50歳以上が、十日町市・津南町で72人、それ以外で31人、合計103人であり、20歳代では地元が14人、それ以外が43人である。ベテランの50歳以上の方が、今後10年で退職されると、地元以外の教員の割合が格段に高くなる。また、採用から1校目で3年、2校目で3年という、1校目2校目の教員の割合が41.7パーセントであるが、地元の中堅の教員が少なくと益々若い教員の比率を高めた中で、教育活動をしなければならない。若い教員は元気があって魅力もあるのだが、若い方は結婚、出産ということがあり、産休、育休を取られる方もいるため、代替教員を確保しなければならない。地元で教員資格のある講師が極めて少なく、その手当てに難渋しており、欠員が生じている学校もある。そういった状況の中で、市全体の教員の必要数を少なくし、学校数が少なくなれば中堅教員も集約できる可能性がある。学校数を少なくすることによって、市外からの若い教員にあまり頼らなくても良い教育活動に目を向けなければならない。今すぐではなく、10年後

- を見ると地元の教員が少なくなる現実があるということも、ご理解いただきたい。
- ⑤ 教員を少なくしたいという意図がある発言であったと思う。十日町市、津南町出身の教員が、十日町市に勤務している人数の表だが、新潟県内で十日町市、津南町出身の教員が何人いるか分からないと、説得力の無い数字である。この表では、現状がこうであるというだけの数字である。
- [答] 従来から魚沼地域は教員確保困難地域と言われ、若い人が教員を目指すことが少ないと聞いている。この表については、平成30年度を断片的にとらえているものだが、過去から通じたものを表していると感じている。教員採用後の1校目2校目については、県教育委員会の指示通りに派遣されるものであり、こういう制度がない限り、この地域に教員が十分に配置できないという実態がある。
- ⑥ この地域の学生が、教職員を目指さない理由の把握や教職員を目指すように育成をしてきたという事例があるのか。何もしなかったからこうなったのか。努力したけれどこういう結果ということか。
- [答] これはという方には、保護者の方も含め、教員免許を取ってこの地域で働いてもらうよう話をしている。校長会においても、当地域の現状を伝え、出来るだけ教員を目指すよう、子どもたちに対する誘いかけをお願いしている。教員そのものについて、厳しい現場があることをマスコミ等で流布されていることもあり、小学校教員の採用試験の倍率では、私たちの年代では8倍9倍であったものが、今年度採用の倍率は1.23倍であり、ほとんどの方が採用されるという実態であった。令和2年度採用では、2倍程度と聞いている。教育学部を出ても教員を目指さず、官公庁や民間会社へ就職する学生も結構いることも聞いている。
- ⑦ 医師確保などは支援措置があるようだが、教員確保についても意識付けのための支援をすればいいのではないかと思う。
- [答] ご意見として承る。
- ⑧ 学区検討委員の皆様が、子どものことを第一に検討されてきたと思うが、住民は自分の地区に中学校がなくなったらどうなるのかという心情からの意見があったと思う。地域の承認が無ければ、統合はしないということだが、保護者はある程度納得できても、地区振興会や地域自治組織は納得してもらえないというように、地域で意見が分かれる場合には、統合をどう進めるのか。
- [答] 方針の2ページに、第1次方針の平成22年以降に5校が統合した経過がある。保護者の皆さんの思いが固まって、地域の皆さんは学校の閉校で地域が廢れる心配もあるが、何よりも保護者の皆さんの気持ちを汲んで理解され、地域住民の皆さんの了解をいただいたものと思う。その後地域の振興会長やPTA会長から統合要望書を教育委員会へ頂いた段階で、教育委員会が動き出したということである。地域の中でも色々な議論があると思うが、それぞれの地域で苦渋の決断をされてきたものと思っている。小学校については、140年以上という歴史のある学校もあり、それが閉校という瞬間を迎えなければならないのは、本当に切ない話であると思う。地域の皆さんの心情を理解したいと思っている
- ⑨ 最終的には、地域の中で話し合ってもらい、決めてもらう必要があるということか。
- [答] 何よりもそれが大切なことだと考えている。地域の皆さんが了解の上で、進めていただきたい。

⑩ この方針の視点に、人数のことが取り上げられ、それによる学区の編成には疑問がある。適正化では、小学生は自分の足で歩いて通える学校にしてほしい。中学校でも自転車で通えるところに学校があることが一番大事なことだと思う。目指す子どもの姿とあるが、人数だけで学区を考えることに違和感を覚える。地域でも自分たちの学校として、大事に思っていることを考えてほしい。小学校は1学級、中学校は2学級、それが適正と本当に言えるだろうか。中学校は、今までも1学年1学級という学校はあった。そこで成長した人もあるのだから、考え直してほしい。十日町市は、人口を増やすことを考えていないのか。この人口のままずっと減るという見通しで、この方針を作っていると思う。地域の活性化、地域創生と聞くが、その地域で学校を作れるような地域にするように、市全体として教育委員会としても考えてほしい。

[答] 一つの例を挙げると、川西町は昭和31年に千手、上野、橘、仙田の4町村が合併した。合併当初は旧町村にそれぞれ中学校があったが、合併して5、6年経ったころに、川西中学校を創立した。千手中と上野中が統合したもので、旧町村の境界を越えた学校づくりが始まり、その後橘中学校が一緒になり、その後仙田中が一緒になった。かなり広いエリアで中学校が運営されている。自転車で通うのは難しい範囲であるが、川西地域の皆さんは川西中学校をこの地域を一つにする学校という意識の中で、見守ってくれている。学校運営協議会の皆さんも川西中のためにご努力いただいている。その辺のご理解が難しいかも知れないが、エリアが広がっても、地域の皆さんが思いを一つにして学校運営に協力いただけたと考えている。地域の皆さんからご協力いただけるよう、お願いさせていただく。十日町市では、産業振興対策に取り組みながら、雇用の場の確保に鋭意努力をしている。また、子育て支援対策で保育料の40%減免や子どもたちの医療費の無料化など、県下でもトップレベルの対策に取り組んでいる。また、例えば地域おこし協力隊の皆さんが、3年の任期を十日町市で働いてくださり、70%あまりの皆さんが定住している。合併前の5市町村では昭和30年頃から過疎化が始まり、過疎地域の悩みを感じ、色々な取り組みで努力してきている。これからも、十日町市政の中でも最重要課題として考えており、市民の皆様からご理解ご協力を賜りたい。教育委員会としても、この地域に子どもたちが定着してほしいということで、9月に産業政策課と教育委員会が一体となって、商工会議所や各地区の商工会、また企業の皆さんの協力を得て、クロスステンを会場にまちの産業発見塾という事業を実施した。去年は28の企業、今年は32の企業の皆さんがブースを作り、企業PRを行った。中学2年生と高校1年生が参加し、この地域にある産業、企業を知ることにより、子どもたちが少しでも定着すれば有難い。

⑪ 教育長から地域の声聞いて考えていくという話があったので、心強く思うけれど、川西中を地域に残せば、ここに住んでみようと思う人が増えるのではないかと思う。若い母親なら、近くに小学校や中学校があるところに住みたいと思うのではないか。複式学級や1学年1学級でも、悪いことではなかったと思う。一番に学校の適正化、そして良い教育をするためには、これが良いと決めてしまうのはどうかと思う。

[答] 学区適正化検討委員会は、地域の代表者、PTA会長を合わせて16人のメンバーで検討され、このような結論が導き出された。中学校の統合目標年度については、検討委員会では5年後という答申であった

が、教育委員会として市民の理解を得るためには、時間が必要であるということから、令和10年度を統合目標にした経過がある。信濃川の西側に学校を残せないかということでは、川西地域、吉田地域、松代地域での説明会でも同様の意見をいただいている。人数については、方針に小学校は1学年1学級以上、中学校は2学級以上という基本がある。その枠の中で考えるが、説明会での色々な意見にはしっかりと耳を傾けて、来年の春ころには説明会の総括を考えている。

⑫ 川治小と南中の保護者ですが、川治小と南中の若い教員は、活気があって有難い。人口が減っていることについて、先日情報館で市議の会派さくらが開催した講演会を聞いた。長野県では子どもを真ん中に置いた指導方法で、自然教育に取り組んでおり、長野県では5年で保育士が増え、指導方法が気に入り関東からの転入が増えたとのことである。地域密着型の指導方法で、十日町市でも取り組めればコミュニティ・スクールが盛り上がるのではないかと思うので、検討をお願いしたい。

[答] 私もその講演を聞いた。森の学校キョロロの実践例の話をしていたが、昨年からキョロロは森の幼稚園ということで、子どもたちが自然体験できる場所の確保ということで、昨年は5、6回実施した。今年度は、キョロロが実施したのは10回で、松之山保育園と高山保育園を会場にして、自然体験できる保育活動にキョロロの学芸員が指導をするという取り組みを始めている。こういった実践を近隣の保育士に見てもらい、自然体験ができる仕組みが、より広がれば良いと考えながら講演を聞いた。

⑬ 南中女子が、駅伝で全国大会に出場することになったが、資金が足りない。教育委員会からの支援を望めないのか。

[答] スポーツ振興課の予算で、幾らかの支援金がでていると思う。学校教育としては、そこまでの支援はできない。例えば、今まで吉田中学校などは、駅伝もクロカンスキーも毎年のように、全国大会に参加していた。地域の皆さんの応援の中で、経費の支援を受けていたと記憶している。

⑭ 津南町や小千谷市は、行政から補助金があるらしい。子どもたちの未来のため、子どもたちが育つうえで全国を目指すために、是非とも支援体制を作られるなら有難いと思う。

[答] 津南町また小千谷市の支援の状況を確認して、検討しようと思う。

⑮ 保護者であり教員である。話を聞いて予算に触れていないことが気になる。統合については、少子化が進む中で、子どもたちが社会性を育んでいくうえでは、多くの人と関わる環境が良いと思う点で、やむを得ないと思う。子どもたちを見ていると、小規模校が大規模校に統合した場合に、ギャップに苦しむ子どもたちが居て、その子どもたちを見ていくには人が必要である。小規模校では、手厚く見ていた環境があったと思うが、大規模校では難しいこともある。県から数年の補助教員の配置があるが、それでもこれだけ大きな統合になると難しい部分があると思う。市でも支援員や補助員を手厚く配置するなど、子どもたちを見守りますという方針が出されると、市民が興味を持つのではないか。学校数が少なくなれば、各校に配当される予算が減り、その予算を子どもたちのためにどうやって使うのかが、この資料には無かったので、予定があるようなら教えてほしい。

[答] 小さな学校からいきなり大きな学校に統合すると、子どもたちの戸惑いも大きいことから、統合前に交流活動を十分に行わなければならないため、これまでも実施している。教員の配置についても、例えば倉俣小学校が田沢小学校に統合したときは、統合前の1年間は倉俣小学校の複式解消のために教員が増えた。また、統合したら馴染みの先生が居なかったとならないよう、倉俣小から統合後の田沢小へ1人、2人の先生を配置することや統合後の2年間程度は教員の加配をお願いしている。市の経費の教育支援員についても、子どもたちの状況を見ながら、適切な配置をしたいと考えている。今は教育支援員も、人手不足であり、配置する予算があるけれど手当てできない実態がある。教育分野でも、人手不足の波がひしひしと押し寄せていることをご理解いただきたい。学校を少なくして予算が余るのかということ、地方交付税の支援金が、記憶では学校が1校あることでおおよそ800万円、1学級で80万円程度の国の支援がある。統合することで国の支援が無くなるため、予算が特に余るということにはならない。

⑩ 教員確保困難地域にも重なると思うが、教員が急に増えることは考えにくい。若手の教員が増えるということは、市外から配置された若い教員の人たちが十日町市に住みたい、十日町市で教員をやりたいと思ってもらうこと。それには、統合に向けて教育支援員が手厚く配置されていること、また市がそういうビジョンを示して、力を入れていることをアピールしないと、出ていくだけになる。統合で不登校が多いことになれば、十日町市には勤めたくないという、負のスパイラルが起きると思う。統合と合わせて、子どもたちを見守るシステムを構築するような支援、採用体制を打ち出していけると有難いと思う。

[答] 十日町市に雪が降ることをマイナスに評価する方がいるが、十日町市は施設がまとまって子育てが非常にしやすいという話も聞く。実際に市外の教員の方が、十日町市に家を建てて移住していることも聞く。十日町市に赴任した教員が、十日町市を気に入ってくれて、定住されることは望む姿である。教育委員会としても、予算獲得等の努力をさらにしていかなければならないと感じている。

⑪ 皆さんの意見を伺い、議会で議論しようと思って来た。教育長の認識にいささか違いがあるのではないかと思う。一つはトップレベルの子育て支援をしているという話があった。ここ数年で病院が無くなり、病床も250床余りが無くなった。特養ホームに入所希望者の400人弱が入れない。それで群馬県に100人くらいが送られている。こういう所に、未来に希望をもって住めると思うだろうか。18ページのまとめのところで、ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子どもの育成を目指し、と書いてある。十日町市の未来に希望を持って支えていく子どもたちという観点の理念が、この方針からは見えない。一定規模の学級数を確保することを基本とするという結論になる。十日町市の子どもたちを育てる教育理念を、どういう夢を持って作ろうとしているのか、その点が一番欠けていると思う。将来十日町市を背負って作る子どもたちをどう育てるかをもっと議論して、作っていかなければならない。先般、京都の南丹市に視察に行った。4町が合併した自治体で、小学校の統合を議論するうえで、その地域の教育理念を徹底して議論して、教育行政の今後をどうするのかという理念を作り上げて、市民議論にしている。十日町市の人を育てる、人づくりを深めてほしい。考え方があったら聞かせてほしい。

[答] ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子どもの育成については、学校教育のめあてと捉え、教育施策を展開している。この取り組みを始めて7、8年になる。主体的に学ぶ子どもの育成、共に支え合う子どもの育成、体力向上に励む子どもの育成、郷土を愛する子どもの育成という柱を建て、様々な教育活動を展開している。学区適正化の方針をたてて市民説明をしているところであるが、一つは統合そのものについての理解を深めていただきたいことがある。また、色々な人口増加対策に取り組む中でも難しい部分があり、現実には子どもたちの人数がこのような推移する見込みがある。この推移についても市民の皆さんからご理解を賜りたい。学校の存続だけでなく、地域の活性化をどうするかという議論が、市民の皆さんの中からも湧き上がってくれば大変有り難いと感じている。

⑱ 説明会は3回目の参加であるが、11月5日の下条地域の説明会の際に、下条のオレンジ色を無くさないでほしいという卒業生の声を伝えた。このような声を下条の誰に届けば良いのか分からない。下条中は中条中と統合するという話があるにも関わらず、中条中と川西中は川を渡って通学が大変なので統合しないと聞いている。私たちの声は市役所に届ける前に、下条の誰に届けば良いのか。次の話し合いの機会がいつになるのか。

[答] どの説明会でも、川西中の子どもたちが川を渡って通学が大変だから、それは止めたという話はしていない。説明会の中で、市民の皆さんや保護者の皆さんの中から、声が上がったという話はしている。川西中が中条中へ統合という計画を翻すような発言をしたつもりはないので、改めてご理解いただきたい。このような説明会を繰り返しているところであるが、もし要望があれば、当方と日程を合わせて再度説明させていただき、色々な意見を賜りたいと思っている。説明会が一巡したら終わり、教育委員会がこの方針通りに進めるということではない。地域の皆さんの議論が進むような形での支援をさせていただくので、地域の皆さんには十分に話し合っていたいただきたいと考えている。

⑲ 下条のどなたに話をすればいいのか。

[答] 保護者の立場であれば、PTA会長に相談していただきたい。

⑳ 昨年度まで川西地域に住んでいて、橘小学校と川西中学校に子どもが通っていたが、自分には検討委員会のPTA会長や地区長などから意見を求められたことはない。学区再編の話も今回初めて知った。地域の合意無しでは進められないと書いてあるが、合意はどういう形で形成されるのか不明確である。自分が知らないところで、いつの間にか統合されてしまうのではないのか。今の状況で予算上どういう課題があり、このまま進むとどうなるのか。地域に学校を残すのであれば、地域がどういう形で課題に答えるのか、などの考える材料がなければ、統合に合意するかしないかの判断は難しいと思う。教育委員会が予算に関しての状況が分かりませんというのでは、どういう形で進めているのか疑問に思う。どういう形で合意し、統合を決定するのか、具体的に教えてほしい。もう一点保護者の観点から、単学級の学年が増えクラス替えができない、自校のみでは部活動の団体戦に参加できない、という理由が書かれているが、保護者からすれば、クラス替えができなくても困ったことではない。部活動も参加できないのは仕方のないことではないかと考えてい

る。この理由で統合を進めるのは、個人的には納得できない。この地域に即して考えるなら、基準を見直す、教員免許を取っている方が少ないのであれば、どうやればそれを取れるのか。国や県もこの地域に即した基準に変えていただくよう働きかけをしなければ、いつまでも人口減少に悩まされるように思う。特に、どのように合意を得たと判断されるのか知りたい。

[答] 今までの例では、PTA会長また地域の代表者の連名で、統合要望書を教育委員会へ提出いただき、その時点で地域の合意が成立したという理解をして、手続きを進めている。そのためには、地域の皆さんの話し合いによる、十分な意見交換をお願いしたいと思う。地域によっては、統合の賛成または反対についてのアンケートを取って評価するという取り組みをしていたところがあると認識している。

②① 橘小学校が統合されるという点においては、私の子どもが在学中の保護者であるのに、保護者間で話題に上がらなかった。学校からも保護者からも話が無かったのは残念だった。この合意形成が、私の全く知らないところで合意していたのなら残念に思う。

[答] 橘小学校を統合するという方針を検討委員会の議論を経て、教育委員会が定めたということである。まだ、橘小学校の統合が決まったということではない。地域の皆さんから、議論いただいた中で統合ということになったら、要望書を教育委員会に頂きたい。

②③ 検討委員会は、どのように選出したのか。委員会に下条地区の人が、なぜ入っていないのかという疑問と気分的には良い感じがしない。下条に中学校が無くなったら、自分の子どもに帰ってきてとは言にくい。なぜかという、中学校や小学校が無くなれば、そこに住む人が少なくなるだろうと想像ができる。中学校も小学校も残してほしいという意見を誰に届けたらいいのか。下条地区振興会からは私たちに話が来ない。自分の意見を誰かにまとめてもらい、それを十日町市に届け、届けただけで終わってしまうのなら意味がないと思う。良い意見なら採用されるのか、採用されないなら意見を出すこともない。

[答] もし中学校にお子さんが通っていれば、PTA会長さんが相談に乗ってくださるのではないかと思います。振興会の皆さんに伝えていただくことも大事な要素だと思う。何よりも市民同士の議論や意見交換がとても大事だと思う。意見があれば、PTAまたは地域の振興会などに伝えていただければ有難いと思う。それから、最初に申し上げたように、地域に反対があれば教育委員会が独断的に進めることはできない仕組みになっている。地域の説明会の中で、学校を残すために子どもたちを増やす活動など、学校を残すためにどうしたらいいか、地域の振興のためにどうしたらいいか、自分たちも考えなければならぬという話を伺っている。教育委員会が方針を定めたから、すぐその通りということではなく、地域発展のために色々な議論があれば有難いと考えている。最初の質問については、たまたま結果的に1学年2学級という基準ができて、下条中が1学年2学級ではないということでこのような形になった。検討委員会のメンバーに下条地域に住んでいた方が居たことが、後でわかったものだが、地域事情を分からない方だけで議論したということではないと感じている。

②④ PTA会長に相談したとして、内容が十分わかっていて、この話がしっかりと伝わっているのか。

[答] 例えばPTAの中でも、意見交換や議論をしてほしいという意味である。この方針を理解しているかどうかではなく、大事なのは地域住民の皆さんとの意見交換である。学校を残すのか、また子どもたちの学ぶ環境を重視するとなれば、統合に向けての対策を議論されると思うので、地域での議論をお願いしたいということである。

②⑤ 他にも1学年1学級の学校はあると思うが、検討委員会に下条だけが入っていないと思う。

[答] 検討は、昨年7月3日から始まり、今年3月31日までであったが、結論を想定してこのメンバーを選んだということではないということをご理解いただきたいと思う。この中で議論をまとめてくださった方が、中里地域の方であるが、中里中についても統合するという議論になった。議論そのものについては、公平中立に幅広く議論がされたと認識している。

②⑥ 高校3年生の子どもに、今後の進路をどうするか、大学はどの地域に行きたいか、将来どんな職業に就きたいか、十日町市に戻ってきたいか、などのアンケートが来た。書いたのは、県内には居たい、十日町市には帰ってきたくない、教育の仕事に就きたいとも書いていた。娘は21歳で10年後に母親になっているかもしれない。娘も十日町市には帰ってきたくないと言っていた。魅力あるまちづくりや教育の充実などを考えると、残念に思う。先程の南中の全国大会での補助金は、スポーツ振興課が担当で教育総務課はよくわからないとか、まちづくりは別の部署が担当であるという話になる。ひとつにまとめて考えなければいけないことが、縦割り過ぎて連携が取れていないのではないかと感じる。子どもに帰ってこないと言い切られても、帰っておいでと言えない現状が見える。職場がない、教員なら以前より採用されるかもしれないが、生活の基盤や小学校や病院などがなく、子どもたちが生計を立てていけるのか親は自信が持てないので、どこに行ってもいいよと言ってしまふ。これから母親になる人、また子育て真最中の人たちが、納得する説明と、もっと多くの市民に現状を周知しなくてはいけないと思う。少人数の方が意見を言いやすいと思うので、車座になって膝を突き合わせて意見交換した方が、正直な意見が聞けるのではないかと思う。納得できるような、理解できるような方針をたててほしいと願っている。

[答] 私の回答で、市政全般について答えられなかった部分があり、ひとつの話として聞き取れなかったという気持ちを持たれたことには、反省しなければならないと思う。お子さんは、十日町市に残っていただけないという気持ちとのことであるが、新潟市を除いた県全体が異動対象となる教員採用と、魚沼地域が異動範囲である魚沼枠という教員採用がある。できればこの魚沼枠にチャレンジしていただき、この地域を支える教員の一人となっただけであれば有難いと思う。若い皆さんからこの地域に定着していただき、盛り立てていただきたいという思いで行政運営をしている。これからさらに努力したい。

②⑦ 十日町市学区適正化検討委員会に、どういった経緯でこの方たちが選ばれたのかという資料を次回以降の説明会に提示されるのか。また、答申までに8回の会議を経ているが、議事録を公開されているのか。それらを見たい場合は、教育委員会では対応できるのか。また、今回の説明会の記録を次回以降の説明会の資料に添付する考えはあるか。

			<p>[答] 検討委員会のメンバーについては、幅広く、特に複式学級があり統合を余儀なくされている学校区を中心としながら検討した。全部で16人の皆様から意見をいただいたものである。学区適正化委員会の議論については、市ホームページで公開しており、議論の経過が分かるようになっているので、ご覧いただきたい。本日の説明会については、概要という形で議事録を作っているが、時間が掛かっており2か月後くらいにホームページに掲載し、各地域の公民館にも閲覧できるように配置している。次回の説明会は来週であり、それには間に合わないが、ホームページに掲載されたら、確認してほしい。</p>
水 沢 地 区	日時	11月20日(水) 19:00~20:10	<p>① 想定Q&Aではなく、実際のQ&Aは見せてもらえないのか。 [答] 7月、8月、9月分までの説明会については、説明会の概要を市のホームページに公表しており、また各地区の公民館にも閲覧できるように配置している。</p>
	会場	水沢中学校ランチルーム	<p>② 22ページの中学校の再編の表で、水沢中学校に中里中学校が統合でよろしいか。 [答] 方針の中では、そのように説明している。今説明会を繰り返す中で、色々な意見をいただいております、より良いアイデアがあれば、それについては検討したいと考えている。</p>
	対象	水沢小・中学校 ・学校運営協議会 ・保護者	<p>③ 決まっていないということか。 [答] 確定した話ではない。統合には地域の皆さんの思いや保護者の思いがあるので、統合要望書を受け取った段階で、教育委員会が動き始めるということである。地域の皆さんからは、子どもたちの現状を情報共有しながら今後どうするか、話し合っていたいただければ大変有難い。</p>
	人数	27人	<p>④ 令和10年度に再編するのか。それまでに条件が整えば再編することになるのか。 [答] 令和10年度は最終目標ということで、それまでに話し合いが終了し、教育委員会に統合要望書が提出されれば、令和10年度以前であっても手続きを進めたいと考えている。</p> <p>⑤ 保護者や地域の方々と教育委員会との話だと思うが、一番影響があるのは児童生徒だと思う。特にこの期間にどうなるのか決まらなないと、中学生と保護者は不安が募る一方だと思う。例えば、水沢から中里中に行くことになるなら、南中の方が近いじゃないかという声がある。再編がまだ決まっていなければ、統合する学校が変わることもあるのか。 [答] この方針が最良と思っているが、説明会を繰り返す中で、色々な意見を承っている。統合にあたっては、中里中ではなく南中ということが地域の皆さんでまとめれば、教育委員会としても改めて検討しなければならないという考え方である。</p> <p>⑥ そうなると、中里中はどうなるのか。 [答] その場合は、難しい問題だと思う。</p> <p>⑦ 一度統合して、またすぐに統合するのは困ると思う。令和10年度が目標であって、その先は分からないけれど、子どもたちの数を見ていくと、いずれはまた再編になることは分かるだろう。それならば、近くの2校を統合するだけでいいのか、もっと大きく考えた方がよいのではないか。地区の要望によると言うが、もし水沢中と中里中が再編するなら、令和10年度では遅いのではないか、今の子どもたちが、この計画を</p>

分からないまま卒業するようになる。人数の多い南中と統合しなければ、また同じようになる可能性があると思う。自分たちでも考えなければいけないと、資料を見て思った。

[答] 学区適正化検討委員会でも、先々の子どもの数をみると、ある程度の大きな範囲での統合が必要であるという答申をいただいたと思っている。この方針では、中条中、下条中、川西中というグループ、また松代中、吉田中、南中というグループを提案しているが、保護者の皆さんと地域の皆さんの学校に対する愛着がとても強くて、説明を1回聞いただけで、すぐに理解していただけることではないと思っている。小学校の統合でも、平成21年度に第1次方針で、10校について統合を提案させてもらったが、5校の統合しか実現できていないという経過がある。中学校についても、市民の皆さんから理解されるためには、かなりの時間が必要であると思う。昨年12月に議会へ中間報告をした際に、松代地域の皆さんは反対運動があった。その後、橘地域の皆さんも反対運動で署名を集めて提出された。地域の皆さんの声も大事にしながら進めなければならない。やはり統合には、時間が掛かるものであると実感している。

⑧ 専門教科外指導は、できるものなのか。

[答] 17ページの「6十日町市立小・中学校の学区適正化に関する方針」の「(2)解決すべき課題」に係る質問だと思う。11ページの中学校教諭等の配当例にあるように、1学年1学級では6人の教諭しか配当されないため、5教科以外の音楽、美術、技術家庭、保健体育の4教科にはいずれか1人の教諭が配置となる。配置がない3教科は非常勤講師や免許外教科担任で対応している。例えば、国語の教諭が技術家庭の免許はないけれども、県の免許外教科担任の承認をいただき対応している。学級数が多くなれば、多くの教科に免許のある教諭が配置されることになる。

⑨ 少子化が問題となっている、また、人工知能A Iが発達している。ある大学教授の講演を聞いたときに、社会科の教員は無くなるのではないかということであった。そういうことも考えて、教科によってはピンチヒッターでいいという基準により、専門教諭の配置を決めるべきではないかと思う。回答は不要。

[答] A Iの発達については、未来予測のようなものでは、20年後には今ある職業の何割かは無くなるという話を聞いている。そういう社会に向かって、子どもたちにどのような学びをしてもらおうか、学校現場でも大きな課題であって、新しい学習指導要領の中で新しい学びのスタイルを取り組みつつあると思っている。

⑩ 今日の説明会が終わり、これからどのような考え方で説明を進めるのか。

[答] 説明会の日程については、本日の資料に日程表がある。1回の説明ではなかなか理解できないことがあり、未就学児の保護者の皆さんやPTAの皆さんから、説明会とは違った形の要望等がきている。説明会が全部終了していないが、今年度いっぱい説明を繰り返しながら理解を深めたいと思う。来年春頃には、この様な説明会でいただいた意見を総括して、どうするかを検討することも必要だと思っている。

⑪ 単純に学級数が多い方が、教諭の人数が多くなり、1学年2学級であれば、子どもの関係が上手いかわからなくてもクラス替えができるので、学級はもっと多い方が良いと思うが、反対するというのは、地元の方たち

(水沢地区)		<p>の愛着や意向が一番の理由なのか。答えられる範囲で教えてほしい。</p> <p>[答] 反対署名をされたのは、松代地域と橘地域であるが、何れも振興会が主体となって署名を集められたということである。どちらも私どもが説明をさせてもらう前に、署名活動が始まったもので、説明会を聞いていただいた後には、改めて反対署名をするということは聞いていない。子どもたちが少なくなるという実態を捉えて、地域の皆さんも子どもたちの学ぶ環境どうしなければならないかということと地域の拠り所が無くなってしまふことの悩みが深いと思う。</p>
--------	--	---

【川西地域】

		日時、会場等	主な意見等
川西地域	日時	11月19日(火) 19:00~20:20	<p>① 中学校の再編計画で、川西中学校と下条中学校が中条中学校に統合するのはなぜか。</p> <p>[答] 23ページの中学校の再編表に、令和10年度に中条、下条、川西をまとめた人数がある。川西中は当分の間、1学年2学級を維持できるが、令和4年度から1学年1学級の学年が出始めて、令和10年度には全学年が1学級になる。中条中は、校舎の規模が一番大きく、最大で9学級、特別支援学級も2学級とれる余裕がある。川西から中条中への通学距離についても、上野の交差点から栄橋経由でも妻有大橋経由でも12分で通学できるということから考えたものである。</p> <p>② 学校の規模が小さいために、中条中に統合しなければならないという話だが、なぜ川西中学校を改築する段階で小規模の校舎を作ってしまったのか。先般の台風での災害状況を見ても、信濃川を渡るのはすごくリスクで、そのような選択をなぜ持ち続けているのか。</p> <p>[答] 川西中学校の普通教室棟は、平成26年、27年頃の建設である。在籍している生徒数、学級数により校舎改築が行われる。その当時に1学年2学級程度であったため、国の補助基準のひとつの考え方に従い建設した。1学年3学級以上の規模で建設するには、余計な部分について市単独の費用で作らなければならない。今までどこの校舎改築にあたって、同様に改築してきたという実態である。また、建設当時には、第1次の学区適正化方針で、1学年1学級ということであった。昨年新たに第2次方針を検討する段階になって、1学年2学級以上という基準で再編をするという、学区適正化検討委員会の答申であったことで、事情が変わってきたと思う。台風19号については、私自身も妻有大橋を渡り、今までに無いような水量が流れていたという実感である。今現在も、姿地域の子もたちは橋を渡り、水沢小、水沢中に通っており、また貝野地区の中学生は、宮中橋を渡って中里中に通っている。</p> <p>③ この地域に住んで20年くらいだが、子育てに良い環境だと思う。これだけ人に恵まれ、自然環境に恵まれているところは少ないのではないかと思う。10年後には必ず再編するという話だけが、進んでいることに違和感がある。もし良い方向に状況が変わったときには、見直しをしてほしい。ここに中学校があつてほ</p>
	会場	川西中学校ランチルーム	
	対象	千手小・川西中学校 ・学校運営協議会 ・保護者	
	人数	45人	

しいと皆さんが思っている。もしかしたらの場合は、もう一度計画を見直してほしい。

[答] 10年後に必ずこうなるというものではない。学区適正化の方針を立て、皆さんに説明しているが、地域の皆さん、またPTAの皆さんの了解をいただいて、統合の話が進められるものである。色々な所で説明会を開催して、色々な意見を承っている。川西地域に中学校を残すということについては、松代地域、吉田地域、川西地域でも、これまでも意見をいただいている。今年度いっぱい説明会を続けると思うが、来年の春頃には色々な意見を総括して、改めて検討する機会を持ちたいと思う。

④ 中学3年の娘と保育園年少がいるので、現実的に中条中学校に通うことを考えると心配である。川西中学校に通っている娘には、友達は誰か、どこに住んでいるのか、などの中身が見える関係だと思ふ。遠くに通うのは、義務教育期間中は避けたいと思ふ。川西地域は、環境も静かでふるさとを愛する気持ちがあふれていると思ふので、地域の良さをしっかりと学んでほしいが、育った川西から離れた学校に通って、地域の良さが教育のどこに反映されるのか、子どもたちがどう汲み取って成長するのか。ふるさと十日町市を愛すると掲げているが、川西地域に住んでいる子どもたちのふるさとはどこになるのか疑問である。川の西側に中学校が無くなるということも、住む価値が無い土地だと言われているような気がして、すごく悲しい。見直しができるなら、川西中学校を残す方向で考えてほしいという願いである。

[答] 方針の中で、統合の対象となっている学校の地域の皆さんについては、皆同じ思いでいると思ふ。子どもの数が少なくなって、その時になってどうするかではなく。今の時点から考えていただきたいという思いである。川西中は、今年度の生徒数144人が、令和13年度には79人になる。経年変化があるかも知れないが、現在の資料ではこのように推計されている。「ふるさと十日町市を愛し、自立して社会で生きる子ども」を学校教育のめあてとして、各学校の教育活動を展開している。教育委員会としても、子どもたちからふるさとを愛して、大人になっていずればこのふるさとを支える人材になってほしいという大きな願いである。そのために、ふるさと教育については力を入れている。小学校5年生から中学校3年生まで使えるふるさと教材の冊子を作り、子どもたちに学んでもらっている。また、子どもたちの職業観を育てるために、去年から市の関係部署と一緒に「まちの産業発見塾」を行っている。今年は、市内企業32社がブースを作って、高校1年生全員と中学1年生全員の子どもたちに市内にどんな会社があるのか体験し、学んでもらい、地域を支える人材になってほしいという思いで取り組んでいる。

⑤ 中学校再編の結果として、十日町市の中央に集約される形になると思ふ。中心から離れた地域の人口の流出の見通しが立っているのか。また、それを防ぐような対策を立てているのか。

[答] この方針を立てた結果、人口の流出を予測するような資料は持っていない。市では総合計画を立て、地域自治組織毎に地域振興策の方針を立てている。それぞれの地域特性に応じながら、各地域の住みよいまちづくり、人口の定住を増加させたいという施策に取り組んでいる。人口対策、過疎化対策は、市町村合併前から各市町村の大きな課題である。取り組みについて、これからも力を入れていかなければならないと考えている。

⑥ 川西町は、4か町村が合併してできた。川西中学校ができるときに、千手と上野と色々な話をして、お互いが譲り合ってこの地に中学校ができた。十日町市として合併するときには、必ずこうなると思い反対した。どういう所で子育てをして、ゆとりある生活をするか、川西の教育環境が良いから、ここに住み子育てをしていきたいということなら、そういう地域が今一番大切だと思う。立派な箱を作っても中身が無ければ何にもならない。子どもから年寄りまで、皆が話をした中で結論を出してほしい。

[答] この地域の子どもたちが少なくなっていることについて、住民の皆さんからも考えてほしい。そういう思いで説明会を繰り返している。子どもたちの学ぶ環境がどうあるべきか、そのうえで、住みよい協働のまちづくりがどうあるべきか、色々な意見交換をしていただければ有難いと思う。市民全体の中で、話し合いがあるということが、とても大切だと考えている。

⑦ 小中一貫教育について、小学校と中学校で交流が進められてきたと思う。まつのやま学園は、今回再編から対象外ということだが、特別扱いに見えてしまう。統合すると、地理的に小学校と中学校が離れてしまうのに、小規模では難しいが小中一貫教育は推進していくと書かれている。どうやって推進していくのか。

[答] 小中一貫教育の形態としては、学校が一体的なものや学校が離れているものもある。実際に子どもたちが目の前にいて、触れ合うことも大切であるが、小学校と中学校の教え方などで、例えば板書の仕方が同じことや、集中させるために黒板の周りに掲示物を置かないなど、教育のやり方の中でも小中一貫的な考え方で教育活動をする場面もある。必ずしも距離だけの問題ではなく、小学校と中学校の教員が、同じ気持ちで同じスタイルで、子どもたちに教えることも小中一貫教育の求める姿でもある。

⑧ 下条は、小学校と中学校を併設する形で、整備してきたのではないか。それは今の話と矛盾しているのではないか。

[答] 下条中学校の子どもの数が、今年度は69人で、令和13年度には43人に減少する。下条地域の皆さんからは、出来れば学校を残してほしいという意見をいただいているが、子どもたちが伸び伸びと教育活動ができるのか、本当に保護者が望む姿なのかを考えていただきたいということで、この度は提案している。学区適正化検討委員会では、1学年2学級を目指すということで、下条中の中条中に統合という提案である。

⑨ 川西中が中条中に統合することについて、学区適正化検討委員会では異論がなかったのか。昨今の自然災害に対して、検討されたのか。

[答] 川西側に学校を残せないかということでは、松代中、吉田中、川西中という組み合わせも議論の中ではあった。川西中については、1学年2学級の校舎規模ということから難しいということで、松代中と吉田中については南中に統合となった。南中については、国道253のルート上に各中学校があるということから、南中となった。学区適正化検討委員会の答申では、令和5年度を統合目標としていた。川西中は、令和5年度ではまだ2学級を維持しているが、令和10年度には1学年1学級となる見込みであることから、中条中への再編という考えがまとまったものである。先般の台風19号が、改めて皆さんに強い印象を与えたと思うが、もし橋が危険となれば、県等の管理者の規制があるものと考えている。

⑩ 先程の説明では、学校を建設するときには、その時の生徒数に合わせた大きさにするので、校舎が縮小されたということだと思う。子どもの数が増えたら、もう一度考え直してほしいという要望があったことをまとめの中に記載してもらえないか。私たちが黙ったら、この示された内容でまとまったという報告になってしまうのではないかと思い、ここに中学校を残したいという、強い要望があったことをまとめに残すようお願いしたい。

[答] 学校統合する場合は、PTA会長や地域の代表者の連名で、統合要望書を提出いただいた段階で、教育委員会は動き出すというスタンスである。地域の皆さんが、学校をどうしても残したいというのであれば、統合要望書が提出されることはあり得ない。今後、子どもが増えることも無きにしも非ずだが、学校統合という説明を機会に、子どもを増やす取り組み、また定住者を増やす取り組みを皆さんからも考えていただければ有難いと思う。

⑪ 川西中、吉田中、松代中の3校だと、1学年2学級規模では難しいということなのか。

[答] 川西中は、1学年2学級の規模であり、吉田中と松代中の子どもたちを受け入れるには、規模が足りないということである。

⑫ 1学級が40人だとすると、1学年2学級に収まるのではないか。学年によっては人数の偏りがあり難しいかもしれないが、中等教育学校への進学者を考えると、収容が難しいということではないのではないか。

[答] 検討した当時においてはそのような見方であり、学年ごとの人数のばらつきは、詳しい資料が手元にない。令和10年度以降になれば、収容できるのではないかと感じる。

⑬ 中条中との統合ありきで話をされるのは非常に心外である。地域が納得しなければ統合しないのであれば、私は反対する。地元には学校がないのは困る。地域の若い人たちが流出する可能性があることは、非常にリスクであると考えている。川西地域では、反対意見がかなりあったということを記録には入れてほしい。

[答] 方針の内容を説明してきている。色々な地域で説明会を繰り返しており、それぞれの地域でどんな発言があったかについては、説明会の概要という形でまとめ、市のホームページの教育委員会ページに掲載している。各地域の公民館にも、この記録を置いており閲覧できる。

⑭ 川西商工会青年部で、中学校の1年生を対象に、ハローワークプロジェクトというもので、川西地域の職業を体験してもらおう事業をしている。生徒の皆さんがいつも真剣で、自分たちもやってみたいという目の輝きが凄くて、やって良かったと思う。保護者や地域の皆さんばかりでなく、学生の意見も聞いて質問に答えて、それが地域全体の意見になると思う。そういう機会を作った方が良い。

[答] 川西商工会さんでも、子どもたちのキャリア教育に関する活動をされているということで、大変ありがたく思っている。子どもたちの意見ということでは、学校を通じて気持ちを確認できればと感じた。

【中里地域】

		日時、会場等	主な意見等
中里地域	日時	11月18日(月) 19:00~21:00	<p>① 水沢中学校と中里中学校を水沢中学校にということであるが、水沢中の敷地は借地で、年間数百万円を払い続けていいものなのか。他の小学校でも借地がいくつかある。それが学区適正化検討委員会では話が出ていなかった。そういう話を含めて検討しないと、単に統合するだけでなく、費用面を減らすことも考える必要がある。小中一貫教育については、具体的な成果が書かれていないし、なぜ始めたのかも書かれていない。第1次の学区適正化検討委員会のときに、市町村合併後の旧4町村は中学校を残そうとなった。合併後間もないことだけでなく、中学校を残して小中一貫教育を進めるためだと思う。文科省が義務教育学校という新しい学校制度を作り、中学校の生徒が何人だから、中学校の教員が何人ではなく、小中学校合わせて教員を配置できる。小学校教員で、中学校の免許を持っている方が5割以上いる。そういう教員により、小中一緒に運営すれば、教科担任が足りなくなることはない、という大きな目的で始めたと思っている。小中一貫教育を続けてきたところ、松之山中学校区、下条中学校区、松代中学校区、吉田中学校区が、学力、体力、自己有用感もずば抜けて高い。小さい学校の小中一貫教育の方が、非常に成果が出るということが分かっている。さらに、下条中学校は地域の方が、小中一貫教育を義務教育学校の方向ということで、校舎を繋げていつでも義務教育学校ができるものを中学校と分けるというのは如何なものか。例えば、中条中学校と十日町中学校を統合する、水沢中学校と南中学校を統合する、周辺部は小中一貫教育を進める。さらに様子を見ながら、規模に応じて考える方法もある。全国的に規模の小さい小中一貫教育は沢山あり、特色を生かした良い学校も視察してきた。小中一貫教育で成果を上げていることが、この方針に記載がないのは残念である。</p> <p>[答] 借地料については、水沢中学校で毎年800万円程度を支払っている。なぜ学区適正化検討委員会で話さなかったかは、子どもたちの学ぶ環境を第一に考えていただきたいということで、そのほかの情報については提示しなかったものである。水沢中の借地が大きな課題になっているが、今の場所に学校を開設するにあたり、地権者の皆さんからのご協力がなければ、出来なかったものである。できた後も地権者皆さんのご協力をいただいて、水沢中の教育活動を展開している点について感謝をしなければならないと考える。また、借地については、子どもたちの人数に比べて、グラウンドは広大であると感じている。一部をお返しできるところがあれば、返還したいと考えている。買収についても、他の学校を含め今まで以上に交渉をしなければならないと考えている。小中一貫教育については、第1次の学区適正化検討委員会の答申では、当方が諮問した以外の部分で、新しい形態の学校教育を検討するよう提言をいただき、それが小中一貫教育である。当時のご意見のとおりであったと思うが、その後市では国の施策に応じて学校の耐震化に取り組んできた。国では平成27年度までに学校の耐震化を完了するよう言われていたが、市では平成28年度に1年遅れで、松之山中学校を松之山小学校に併設して建設し、耐震化が完了した。平成21年当時に、小中一貫教</p>
	会場	中里支所	
	対象	田沢小・中里中学校 ・学校運営協議会 ・保護者	
	人数	40人	

育の方針をしっかりと定め、周辺地域での明確な計画ができていれば違ったかもしれない。学校の改築にはタイミングがあり、最終的にひとつの学校を作るにあたり 10 数億円前後の費用が掛かる。小中一貫教育については、これからも継続して取り組みをしたいと思うが、小中一貫校についてはハードルが高いと思っている。学校の耐震化が終了した段階であるため、新たに小中一体型の学校を作ることは、今現在の構想にはない。第 1 次の答申をいただいた後、子どもたちの数が思った以上に少なくなっている状況があるので、学校の適正化について第一に考えなければならない。この状況について、市民の皆様にご理解いただき、ご意見を賜りたいと思っている。

② 貝野小学校は統合に進んでいるということで、水沢中学校と中里中学校の統合を皆さんが心配していると思う。数字を見れば、2校が1校になることは誰もが仕方ないと思っているだろう。そこでなぜ水沢なのかという理由があるが、給食配送設備が整備済みであることと、学校の建築年の新しい施設を使用している。建物は、中里中が1年だけ早いだけだし、給食は自校で作っている。地図を見て思うのは、中里は面積が広く、中里中にバスで通っている子どもは通学時間が非常に長い。さらに水沢まで行くことになると、子どもたちが大変なのではないか。松代から南中に来るのもかなり難儀だろうと思う。まつのやま学園について、子どもが少なくなる中、ずっとこの体制なのか疑問が残る。この先もし松之山中学校がどこかと統合する場合に、通学時間等を考えると水沢中ではなく中里中になるのではないか。

[答] スクールバスは、中里から水沢中への通学に、できるだけ短い時間で通学できるよう検討していかなければならない。松代地域の説明会でも、通学時間を心配する保護者の声が多くある。松代地域は、小学生や中学生が市営バスに乗って通学している。その時間短縮を図る方法を教育委員会で研究しなければならないと思う。スクールバスの送迎には、出来るだけ子どもの数が少ない方が運行しやすい面がある。中里中と水沢中の子ども数は、ほぼ同じくらいであるが、市町村合併の時から傾向を見ると、中里中では 200 人以上の子どもたちがいた時代があるが、減少率が高いため、令和 13 年度以降を想定すると水沢中よりも子どもの数が減っていく可能性が高いと考えている。そのことから、スクールバスでの送迎は、中里中から水沢中に通学する方が良いと考えている。松之山中学校については、令和 12 年度には複式学級になるという推計が出ており、松之山地域の皆さんは非常に心配している。松之山では、山村留学に取り組んだ経過がある。松之山に都会の子どもたちを連れてきて、学んだという取り組みを改めて検討できないかと発言したところ、以前に山村留学に関わっていた方が、そういうことも考えなくてはならないということであった。色々な形で子どもたちが増えることになれば、学校が存続する可能性を否定はできない。

③ 水沢中学校が中里中学校に来てほしいと要望する。年間 800 万円も支払って 10 年で 8 千万円掛かるのは、非常にもったいない。土砂災害警戒区域についても、最近では雨が多く、レッドゾーンの改定があつて広がるかもしれない。イエローゾーンに入っていることは、末端であっても安全ではないだろうから、中学校を置くことは良くないと思う。中里地域の住民として、この地域から色々なものが無くなっていくのが非常に残念である。市営の保育園が無くなり、中学校まで無くなり、中里地域まで無くなったらどうなるのか。

(中里地域)		<p>統合しても良いが、中里中学校の方に来るよう検討してほしい。</p> <p>[答] 土砂災害警戒区域については、現在は生徒に危険が及ぶ状態ではないという判断である。今後基準が変わり校舎がレッドゾーンに入るようであれば、その時点で検討しなければならない。地域に学校が無くなるのが非常に寂しいという思いは、学校が無くなる地域の共通した思いだと思う。そこで地域の活性化をどのように図るかについては、行政全体の課題として色々な施策を行わなければならないと思っている。地域の皆さんも地域の活性化のために、一人一人何ができるかという色々な思いを巡らせていただければ有難いと感じている。水沢地域の子どもたちが、中里中学校へということについては、両地域が同じ思いで話が決まるようであれば、教育委員会としては検討することになる。</p> <p>④ 年間 800 万円水沢中学校に掛かるのであれば、その費用で中里中学校に給食センターからの配送設備を作れるのではないか。給食配送設備はいくら掛かるのか。</p> <p>[答] 現在、新たな給食センターを作る考えはない。いくら掛かるのかは答えられない。市内に給食センターが5カ所ある。子どもたちが少なくなると、作る食数も減るため、5つの給食センターの能力の範囲内に収まってくることになる。今ある給食センターに、運搬台などを確保することで対応できる。</p> <p>⑤ 土砂災害警戒区域について、国交省のホームページには、イエローゾーンは建物の損壊の恐れは少ないとは書いていない。災害弱者の老人や小さい子どもたちは、避難させるよう準備をさせなければいけないということが書かれている。災害で思い起こすのは、石巻の大川小学校の件である。土砂が流入して子どもたちが巻き込まれたなら、この資料は証拠物件となり、市教委に責任が問われることになる、あるいは県が責任を問われることになるのではないか。大川小学校の悲劇の二の舞にしてはいけないという思いがあり、もう少し慎重に考えてもらった方が良いのではないか。</p> <p>[答] 県にも確認し、もしこの資料の表現が適切でないということであれば、改めて説明したいと思う。付け加えると、用語の説明の部分の表現のことだと思うが、レッドゾーンではかなりの力で建物を壊すなどの危険性があるけれども、イエローゾーンではそれほどではないということからこの様な説明になった。</p> <p>⑥ 水沢中学校のグラウンドにランニングコースがあり、職場で散歩している。最近、雨により山側から石が落ちてくるため、近づかないように言われている。そういう危険なところがあることを伝えたい。</p> <p>[答] 先月、消防の訓練が水沢中学校のグラウンドで行われた。その際に1周してみたが、通行を止めてはいなかった。</p> <p>⑦ 図面の水沢中学校校舎の下側に「W」と書かれており、遊水池である。下側の民家に被害を及ぼさないために、遊水池を設けたのではないか。この沢には、それなりの水量が流れることが、想定されているのではないか、それを確認しているか。</p> <p>[答] 建設関係の職員との話で、周辺の耕地改良をする際に、用水の貯水能力が必要という制約があり、調整池を設けなければならなかったと聞いている。周辺の開発上で、この池が必要となったものである。</p> <p>⑧ 話を聞いてもデメリットしか感じない。学校統合は、子どもたちにとって良いことだと思うが、市民を動</p>
--------	--	--

かすには、もっとメリットをアピールしないと中里から水沢に行くことはないと思う。

[答] 中里中と水沢中の関係をどうするかについては、学区適正化検討委員会でも難しい判断であった。メリットについては、学校の建築年が、中里中は昭和58年、59年ごろ、水沢中は平成元年であり、4、5年違っている。それから、給食の搬入口が整備されていることである。子どもたちの学ぶ環境について、大きな差があるから統合ということではなく、少しでも子どもたちの学ぶ環境として、この方が良いのではないかということで説明している。地域の皆様の同意がなければ、教育委員会として進められない。水沢の子どもたちから中里へ来てほしいという話だが、色々なチャンネルを利用して、水沢地域の皆さんとも話し合う場面があれば有難いと思う。

⑨ 中里中学校は、自校で給食を作っているが、給食センターにすると美味しいのか、安全なのか心配である。今子どもが、小学校と中学校に行っており、給食は美味しいと言っている。仮に、給食センターになっても本当に美味しいなら良いが、食べたことないので感想を聞きたい。

[答] 学校訪問して、年に5、6回は色々な学校の給食を食べているが、特に不味いという話は聞いていない。各地域から十日町市に赴任された教員の評価では、十日町市の給食は美味しいという話を聞いている。安全については、非常に注意を払っており、昔は給食調理場に顔を出して挨拶することもあったようだが、今は隔離した中で、食材などの搬入についても、下洗いしてきれいにしたものを調理室に運ぶようにして、雑菌などが入らないようにしている。自校給食の学校では、2、3人の少人数で運営している。風邪をひいて休むことも想定されるが、代替えの調理員を確保することが難しい状況がある。給食センターでは、運営を会社に委託して、それぞれの会社が大きな組織の中で人員をやり繰りしている。給食の安定的な運営では、大きな給食センターの方が安心できる。10人が働いている調理場で、1人休んでも残りの9人でカバーしやすい。自校給食で3人のうち1人が休み、代替えが見つからない場合は、教育委員会の栄養士が学校へ行き、対応している現状である。

⑩ 水沢地区での説明会が終わっている。メリット、デメリットで言うと、水沢には子どもたちが来てくれて、生徒数が多い方が楽しいことも想像できる。例えば、借地問題を解決するよう地域が働きかけるなどの話があるのかどうかなど、教えてほしい。

[答] 説明会の質疑の概要については、市のホームページに掲載している。また、各地区の公民館にも配置して、閲覧できるようになっている。水沢地区説明会の概要を紹介する。(説明内容は省略)

⑪ 統合を考えると、地域全体を考慮することが大事である。川西側に学校がないというのは、問題があると思う。全部中央に寄せようとする考え方も、十日町市全体を考えたときにどうかと思う。

[答] 川の西側に中学校が無いことについては、松代地域、吉田地域、川西地域での説明会で発言がある。また、中条地域では、川西の子どもたちが川を渡って中条へ来ることについて疑問があり、川の西側に学校を残すべきではないかということである。教育委員会としては、学区適正化の方針を定めて、説明しているところだが、色々な意見をいただいたものを改めて総括する場面が必要ではないかと考えている。まだこれか

ら説明会を続け、来年の春以降に総括ということで、川の西側に学校が無いということはどう考えるかについて、教育委員会などで考えなければならないと感じている。

⑫ 私は上山で、学校が荒屋にあるので、歩く距離がちょうど良い。運動が好きではないので、日々歩くことが良かったと今は思えるので、歩く機会を奪うことを心配している。学ぶ環境で、複数クラスが望ましいというが、複数クラスにこだわらなくても良いのではないか。職場が栄村で、栄中学校や上郷中学校などの小さい中学校もある。地域に中学校があつて、歩いていると地域の人が声をかけたりするふれあいもあると思う。スクールバスでは、そういう交流がなく、歩いているあの子はどこの子だとかいう話もできなくなり切ないと思う。中里地域には、中学校を残してほしいと思う。

[答] 子どもたちが体を作るという部分では、歩いて通学するという時間はとても大事だと思う。自分の子どもが小学生の時には、2kmほど歩いて通学した。歩いての通学は大変だが、心も体も鍛えられると思う。先般、服部勇馬さんが凱旋報告会に来市された際に、雪国中里で生まれたという話があった。吹雪の時に、歩いて学校に通った辛さに比べれば、今の練習の辛さは克服できるというようなことを話されたことが印象的であった。スクールバスになってしまうと、そういう経験が少なくなってしまうというのはその通りである。学ぶ環境として複式が悪いという考えはないが、昔と比べ兄弟が少なく核家族化しており、多くの人とコミュニケーションする機会やある程度的人数の中で切磋琢磨する環境を作ることも大事ではないかと考えている。保育園、小学校、中学校、高校と、発達の段階に応じて大きな集団の中に身を置いて、社会に出ていくことが大事ではないかと考えている。

⑬ 教員の配置について、1学年2学級になると教員が9人で、音楽、美術、保健体育などの主要5教科以外の教員が増えるということか。

[答] 11ページに教員の配置について、学級数が増えると教員も増えることになる。各学年2学級は欲しいと提案しているが、各学年3学級になれば本当に教員が充実していると思う。12ページの十日町市、津南町地域の教員の年齢構成の表を見ると、50歳以上では地元の教員が72人とある程度多いが、20歳代では地元が14人で地域外の方が43人である。地元の教員が少ないと、他所からの人材で補わなければならない。50歳以上の方が定年退職していくと、他所からの若い人材に入ってもらいたくないと学校教育が成り立たないという姿がある。ある小学校では、担任の75%が1校目、2校目の若い教員である。若い教員は元気があって良いということもあるかも知れないが、学級経営や児童生徒の指導などは、経験がある程度必要だと思う。人的に年齢的にバランスが取れた学校運営ができるような姿が、一番望ましいと考えている。

⑭ 中学校の統合計画では、1学年3学級になるのは、統合してから2、3年しかない。その後はずっと2学級になる。若い教員が増えてくると、1学年1学級なら3学級を担当すればいいところを1学年2学級になると6学級を担当しなくてはならなくなり、その負担が増えるのではないか。それなら、1学年1学級の少人数の方が良いのではないかと思う。

[答] 音楽、美術、技術家庭などは専門の教員が少なく、講師の方に依存し、また専門の教員が他の学校も兼

務している状態である。その科目を教えるときだけ兼務の学校に行くということである。1学級の生徒数は、中学校では40人までが1学級である。41人では2学級になるので、その時の人数によるため、1人の教員が何人を教えるかについては、一概に言えないところがある。

⑮ 15ページの(3)①学級数では、小・中学校とも12学級以上18学級以下を標準とあり、その下にただし、豪雪・中山間地である等の地域特性から6学級以上、学級規模は1学級20人程度以上が望ましいとなっている。十日町市は、これに当てはまるのではないか。

[答] 国が考える標準は、ここに書いてある通りである。小学校では1学年2学級から3学級、中学校では1学年4学級から6学級になる。ただし書きでは、小学校が1学年1学級以上、中学校では1学年2学級以上となる。そして、1学級20人以上が望ましいという考え方である。十日町市は、7ページと8ページに各学校の児童生徒数と学級数が記載されているので、1学級当たりの人数は計算すれば出せる。十日町市は、豪雪・中山間地域であるため、このただし書きに該当する。

⑯ 中学校の統合に関して、学区適正化検討委員会を含め色々な議論があったと思うが、水沢中学校に統合する決め手となるものがなかなか無いように思う。逆に中里中学校に統合するという議論が、学区適正化検討委員会の中であったのかどうか。それと、子どもたちにとって良い学びの環境を構築するという事で、水沢中学校は建築年度が4、5年新しいことと、給食配送設備が整備済みであることがあるという説明があった。その他に何か理由が無かったかどうかを確認したい。また、学区適正化検討委員会では、借地料の情報をあえて提示しなかったということ、土砂災害警戒区域の状況を踏まえて、教育委員会として水沢中学校に統合するという案が最終的なものと考えているかどうかを説明してほしい。

[答] 水沢中学校の子どもたちを中里中学校にという議論は、結論として大きな話題にならなかったことから、中里中の子どもたちが水沢中になったと思う。子どもたちの教育環境について、大きな差があるという説明ではないが、先程の建築年度が新しいことと、給食搬入口が整備されていることしか話ができない。また、将来的な子どもたちの数の推移を推測すると、中里の子どもたちの減少率が大きいという印象がある。スクールバスで通学するにあたり、運行しやすいのがこの方針である。借地料については、出来るだけ減少するよう、お返しできる部分は返還し、借地の購入についても他の部署と連携し、取り組みを強化していかなければならない。土砂災害警戒区域については、地域の皆さんから色々な意見をいただき、検討していかなければならないと感じた。

⑰ 過去に中里中学校に200人以上いた経緯があり、そこからの減少率ということだが、令和10年度から13年度までをみると、さほど差が無いように見える。水沢中学校には200人以上いたことが無いのであれば、200人以上いた学校の方が設備的には良いのではないかと思う。

[答] 水沢中学校は、市町村合併時点では200人はいなかったと思う。長いスパンを見ると、中里地域の減少率が大きいということである。水沢中の設備については、平成24年3月にランチルーム兼図書室を地域の皆さんが多額の寄付金を集め、その熱意を受けて市が整備したという経緯がある。

(中里地域)		<p>⑱ いくら掛かったのか。 [答] 1億円以上は掛かったと思う。</p> <p>⑲ それは、理由にならないと思う。借地料800万円が10年で8千万円になる。 [答] ご意見として承る。</p> <p>⑳ 中里地域での説明会は、今日で予定されたものは終わりだと思う。市では一旦この方針を決めたので、水沢中への統合に向けた課題を解決するスタンスであり、中里中への統合は考えていないと受け取れる。今日の説明の中でも、これほど広いグラウンドは要らないので返還するというが、どれだけ減らしていくらになるのか。また、土砂災害警戒区域についての質問など、何点か質問が出てきたと思う。今後のこの会については、中里地域からお願いするアクションを起こさないと開かれないのか。 [答] 日程的には、中里地域では貝野小学校の学校運営協議会への説明が未定となっている。もし、個人的に質問があるようでしたら、教育総務課に問い合わせいただきたい。団体等であれば、日程を合わせて説明に伺いたいと思う。特に未就学児の保護者の皆さんには、ある程度話し合ったうえで、また説明に来てほしいとなれば出向きたい。この方針を十分に理解できていないということで、もう一度開催しても良いと思う。今年度は、この予定表にない説明会もあると考えている。</p>
--------	--	--

【松代地域】

		日時、会場等	主な意見等
松代地域	日時	11月11日(月) 19:00~20:40	<p>① 非常に丁寧な資料で実際にバスの運行を見てイメージできる。南中から帰りにまつだい駅着が6時45分で、その後各集落に子どもたちを送って家に帰ると7時を回るという不安がある。登校で南中に着く時間が、夏場は8時10分に着くと思うが、冬には着かないと思う。十日町橋も混んでおり、実際にはこのバスの運行とおりにには難しいと思う。適正規模の学級数の12学級以上18学級には合っているが、通学距離の中学校6km以内と通学時間の概ね1時間以内には合っていない。子どもたちには、登下校各1時間、1日2時間の通学時間を強いられることで、学力面や疲労感などに不安を感じる。そのことに関してどのように考</p>
	会場	松代公民館	
	対象	松代小・松代中学校 ・学校運営協議会 ・保護者	

(松代地域)	人数	38人	<p>えているか。</p> <p>[答] 通学についての不安については、冬期間にスクールバスを実際に走らせて、どういう状況になるか。市営バスを利用する考え方だが、それだけでいいのか。これから検証しなければならない大きな課題だと考えている。できるだけ子供たちに負担にならないような形で、通学できれば良いと考えている。また、通学距離の小学校4km、中学校6kmは、徒歩の場合1時間以内という基準である。交通機関を利用した場合であっても、概ね1時間以内という考え方である。交通機関を利用した場合には、4km、6kmという距離は対象外となる考え方である。</p> <p>バスの時間について、まつだい駅から南中学校への時間が25分としているが、東頸バスの時間をそのまま準用している。東頸バスは、樽沢地区に入って遠回りしているが、スクールバスは直通になるため、数分は短縮できると思う。また全体の運行時間は、もう少し効果的な時間を組むことができると思う。</p> <p>② 中学校で部活をすると、朝練や夜練には保護者が送っている。一番遠くて20分くらいかかるが、南中まで送迎となると保護者が40分かけて子どもを送り、その後仕事に行くことになる。勤め先が十日町なら良いが、上越市方面に勤めている方も多い。部活動がしっかりとできるように学級数を確保するのであれば、保護者が送迎をすることになると思うのだが、どう考えているか。</p> <p>[答] 朝練や夜練など、スクールバスの運行時間外での活動であれば制約がでてしまうと思う。ほくほく線を利用してまつだい駅から十日町駅まで行き、そこから南中に行く方法もある。必ずしも保護者の送迎という考え方でなくても、部活動は可能であると考えます。</p> <p>③ 十日町駅から南中まで、徒歩でどれくらい時間がかかるのか。</p> <p>[答] ほくほく線は、まつだい駅から十日町駅まで10分間である。そこから南中学校までは、実際に歩いていないが距離的にみて15分程度と思う。南中学校で駅周辺の子どもたちは、実際に歩いて通っている。</p> <p>④ 今日の説明会は、一番関係がある保育園の保護者の方には案内されているのか。されていないのなら、説明会の持ち方が如何なものかと思う。</p> <p>[答] 保育園の保護者、未就学児の保護者の皆さんには、今回の説明会の案内をしていない。改めて説明の機会を設けられればと思う。</p> <p>未就学児の保護者も一緒にこの場で、意見を伺えれば良かったと感じている。今回、小学校、中学校の保護者の皆さんが、未就学児の保護者の声を聞けなかったことは申し訳なく思っている。未就学児の保護者の皆さんには、改めて説明させていただきたい。また、これまで28回の説明会を行っているが、7月、8月、9月の説明会の概要を市のホームページの教育委員会ページに掲載し、確認いただける。各地域の公民館や支所にも、説明会の概要のファイルを配置しているので、閲覧いただければと思う。</p> <p>⑤ 今日の説明会は、学区適正化で統合することを丁寧に説明することで、質問は受けるが方針は変わらないという考え方でいいか。</p> <p>[答] 教育委員会では、方針を定めたが、これが絶対であり変更しないものではない。説明会で色々な意見を</p>
--------	----	-----	--

(松代地域)		<p>承り、説明会有一些程度一巡した段階で、意見を総括しなければならないと思っている。小学校1学年1学級以上、中学校1学年2学級以上という基準の中で、新しい良いアイデアがあれば、それについて検討したいと考えている。</p> <p>⑥ 松代中学校での合唱や発表を「とても素晴らしい、素直で明るい」と先生方が褒めてくださる。人数合わせで南中のような大きな学校に組み込まれたとき、子どもたちの精神的な負担やいじめ問題などを心配する。大人でも合併したときに、支所の方やJAの方が大変苦勞されたと聞いた。組み合わせでは、平等で同じ立場ということを考えて思うが、大きな学校に吸収されてしまう。どうして南中なのか疑問である。</p> <p>[答] 統合になった場合の子どもたちの関係性を十分作らなければならないと思う。交流学习を行い、大きな集団に飲み込まれるという雰囲気では無く、松代中学校の伝統と吉田中学校の伝統を持ち寄って、新しい学校を作る、学校名も検討してほしいという思いを方針の中に記述している。新しい学校文化を自分たちで作るという気概を持って、統合をお願いしたいと思う。統合によって、いじめが発生するようなことが無いように、教員は努力しなければならない。市町村合併時に支所の職員やJAが合併した時という話があったが、それぞれ組織の文化があり、新しい組織の文化を作りそれに馴染む過程では、今までの流儀が通じないことがあると思うので、若干のストレスはあるものと感じている。なぜ南中学校にということでは、ひとつに地域的な連坦ということがある。当地域は国道253号で、吉田地区、南中学校の地域とつながっている。また上沼道について、今後改良が進むと太い動脈の中で結ばれる地域ということから方針を定めた。南中ではなく川の西側に中学校を残せないかという発言が、当地域や吉田中学校、川西地域、中条地区などでの説明会で発言されている。南中学校は、現在8学級であるが最大12学級の学校規模である。令和元年度の生徒数で、松代中と吉田中が南中と一緒にしても各学年4学級であり、受け入れ可能な規模がある。川西中学校は、最大学級も現在と同じ6学級であり、この規模で5年前に改築したため、松代中と吉田中をすぐに受け止め切れないという学校規模である。そういった議論の中で南中学校ということになった。</p> <p>⑦ 今日集まった人で、統合した南中に子どもが通うことになる人は居ないようだ。未就学児の保護者に案内がなかったということだが、自分の子どもが南中に行くことは無いと思われる中で、松代地域に説明をしたというのは如何なものか。早期に未就学児童の保護者にも説明会を実施してほしい。</p> <p>[答] 当方の日程と会場の都合を合わせて、早めに説明させていただければと思う。</p> <p>⑧ 地域に学校がなくなるということは大変なことである。区長や地域の方には説明をしないのか。保護者だけではなく、地域の方の声を聞いてほしい。</p> <p>[答] まだ日程が決まっていないが、地域住民の皆様への説明会を日程調整中である。</p> <p>⑨ この方針は決定ではなく、10年くらいかけて検討していくという姿勢だと思う。資料にある子どもたちの人数を見たときに、ある時点で限界が来ることは想定できる。学校を無くしたくなくても、子ども的人数が居なくなればどうしようもない時点が必ず来ることは、なんとなく分かる気がする。決定がまだだとしても、このような状況を小規模校の地域や保護者にだけ説明するのではなく、受け入れの大きな学校の地域の</p>
--------	--	---

（松代地域）		<p>人たちにも、説明やお願いをしないと、色々な問題や課題が浮き彫りになるのではないかと思う。昔私が安塚に居たときに7つの学校を1つに統合する経験をした。対等統合をしたのだが、吸収統合か対等統合かでは、意識として変わってくる。小規模な地域の学校と、それを受け入れる大きな学校も同じような気持ちで統合を進めないと問題が起きる。例として、安塚の学校統合のときには、どのような気持ちで統合するかを受け入れる学校で、PTAが何度も集まり話し合いを重ねた。統合したときのPTA会長は、受け入れる学校からは選ばないということまで配慮した。方針にある中条中、南中、水沢中の先生、子どもたち、地域の皆さんが、敬意や思いや対策などを説明し、協議していく仕組みをしっかりと作る必要があると思う。今後、統合される側の説明会だけではなく、受け入れ側の説明会を計画してほしい。</p> <p>[答] 既にそのような気持ちの中で、地域自治組織や地域住民の皆さん、学校運営協議会や保護者の皆さんへの説明を大きな学校でも繰り返し開催している。PTA会長の話があったが、素晴らしい取り組みだと思う。当地域でも松代小学校に孟地小学校と奴奈川小学校が統合した際に、孟地小学校に伊沢和紙での卒業証書を作る伝統があり、統合してもそれを引き継いでくれた。それをとてもうれしく思い、お互いを思いやり、お互いの文化を認めた中での統合が大事なことだと思う。この方針における統合でも、学校やPTA関係者、学校運営協議会などで、そのような気持ちを持ちながら統合の話が進めば有難い。</p> <p>受け入れる学校関係の説明会という話があったが、資料で説明会の日程にあるように、全ての学校区で保護者の方を対象に説明会の日程を調整している。南中学校については、明後日（11/13）に段十ろうで、他の学校とも合同で説明会を行う予定である。</p> <p>⑩ 学習発表会や授業風景などを見たり、中学校の学力の状況などを聞いた中で、松代中学校については平均以上の成績であると聞いている。小規模ながら非常に良い教育が成されている。大規模だけが良いのではなく、小規模校の良いところを伸ばす、育てていくという考え方も必要ではないかと思う。通学では、遠いところは片道で1時間以上確実にかかる。往復で2時間以上となると、子どもたちには負担になる。バスでは、通学時間中に何かをすることができないため、それがリスクになる。統合による効果と比較してどうなのか、子どもたちに負担をかけることが良いことなのかしっかりと考えてほしい。</p> <p>[答] 松代中学校は、校長をはじめ教員が努力して、子どもたちの学力や生徒指導に尽力され、良い成果をあげている。これからも引き続き努力をしてほしいと思う。統合すると通学時間がかかるということには、出来るだけ通学時間が短くなるよう、これから冬期間に実際に走行し、どのようなルートが良いのかについても、支所と相談しながら考えたい。小規模校のメリット・デメリットについては、方針の14・15ページに載っているが、小規模校だから劣るという考え方は無い。統合してある程度の人数的中で、子どもたちが切磋琢磨する姿が、より可能性を広げるのではないかと考えている。通学時間のデメリットが、あまりにも大きいとなれば考えなくてはならないと思っている。</p> <p>⑪ 12歳以上の子どもが、松代地域で育たないことが良いことなのか。1学年が40人以下なら同学年では1学級しか出来ないが、習熟度別に学年を上がることができれば良いと思う。同学年で1学級にこだわる必要</p>
--------	--	---

があるのかという疑問がある。統合を進める先には、十日町市に子どもが居なくなり小さくなっていくしかない。より魅力ある学校を地域と教育委員会とで作っていかないと、子どもが増えずに消滅する市になっていく方向しかないという危機感と、移住した自分としては小規模の学校がなくなることを残念に思う。

[答] 魅力ある学校づくりについては、今までも教育委員会として支援をしてきたつもりである。各学校が、地域の支援を得ながら、色々な取り組みをしている。引き続き教育委員会として支援を行うので、学校運営協議会の話し合いで、取り組んでいただければ有難い。子どもたちの年齢でなく、習熟度に応じた集団での学びについては、実際に行われているのか分からないが、子どもの学力に応じて幅広い学年を集めて、同じ学びをさせるということについては、主要5教科の中では難しいのではないかと思う。

⑫ 私の集落で、これから小学校に入るのは2軒しかなく、市外から移住された方である。市街地ではなくここが良いと思って住まわれているのに、自分たちの思い描いた子育てが統合によりできなくなるかも知れないことを、その人たちがどう感じるのか。松代では、スキーを頑張っているが、南中でもアルペンスキーを続ける子が居るのか、松代の良さが失われるのではないかと思う。小中一貫教育を始めてから、地域と学校が一緒になって、地域を盛り上げようとなっているが、南中と一緒に広い範囲では、そんなイメージを持ってない。10年後は変わってしまうことに寂しさを感じる。まつのやま学園の統合が10年間は無いのか。松代と松之山は近いのに、このまま進めてまつのやま学園がどうなるのか心配である。

[答] 松代地域は魅力ある地域で、色々な方が転入されて活動されている。合併前から世田谷区との交流や早稲田大学との交流を旧松代町としてしっかり取り組んできた伝統だと思う。これからも色々なことにチャレンジしていただけたら有難い。統合により、小中一貫教育のエリアが広がるのは確かである。東小学校では、新座地区の子どもが十日町中学校へ行き、大井田地区の子どもたちは中条中学校へ行っていることから、拡大中学校区ということで、二つの中学校区の中の十日町小学校、中条小学校、飛渡第一小学校と東小学校の4校を含めて、十日町地域と中条地域の広いエリアの中で、小中一貫教育の取り組みをしている。例えば、松代中、吉田中、南中が一緒になると、松代小、吉田小、鏡島小、西小、川治小と一緒に、小中一貫教育の取り組みをイメージしている。それについても、学校運営協議会での議論やPTAの皆さんでの議論が大事であると考えている。まつのやま学園については、生徒数の推計表にあるとおり令和12年になると中学校が複式になるということで、地域の皆さんも心配されている。旧松之山町では、山村留学という取り組みで、都会の子どもたちを学ばせたという経過がある。説明会の中で、そういう取り組みを改めて検討しなければならないという声を伺った。地域の皆さんの今後の取り組みを注視している。子どもたちの数を増やすこと、この地域で産んでもらうことも大切であるし、他所から来てもらうことも一つの考え方であると思う。

⑬ まつのやま学園は、松代から通うのに近いことから、松代中と松之山中が統合する考えは無いのか。

[答] 今は、方針の中ではその考えは無いが、松代と松之山の地域の皆さんが話し合っ、そういう議論が出てくるようなら検討したい。

⑭ 未就学児の保護者への説明について、小学校、中学校のことが分からないと思うので、質問が出ないかも知れない。先輩方の居る場で情報の共有ができると、心配していることが分かる。未就学児の保護者だけでなく、地域全体で学校のことを考えるように検討してほしい。資料について、自分の集落の児童数が違っており、他でも違っているかも知れない。単に数字の誤りだけでなく、子どもや保護者に関わるデリケートな学校の話であるため、しっかりと説明してほしい。

[答] 松代小学校児童数推移の資料は、住民基本台帳を基に作成したものであるが、改めて確認する。未就学児の保護者への説明について、松代地域では地域住民への説明会が調整中であるため、そこに未就学児の保護者から出席いただいて、色々な心配や意見を賜れば有難いと思う。

⑮ 学校が一つ無くなるということは、地域文化や地域経済が衰退するのは明らかである。そのリスクを考えながら統合を進めてほしい。市にも提言してほしい。

[答] 如何にして地域振興を図っていくかは、行政全体の大きな課題と思っている。各部署において、まちづくりについて一生懸命考えたいと思う。

⑯ 何年か前に、上郷中学校と津南中学校が統合したが、その前に1年間は地震のために上郷中の子どもたちは、津南中に校舎を借りながら勉強した。いざ統合となると、色々な問題が発生した。本日の資料にはそのようなことは一切書かれていない。南魚沼市では、八海中学校が3つの中学校を一つにして誕生している。例えばどういう問題が起きていたのか、ということも資料に載せてほしい。1学年2学級以上にするこのような良い点があるということは資料に載っている。しかし、実際にこういう問題が近隣ではありました。ということ全部明らかにしないと納得されないと思う。

[答] 近隣での統合事例について、どのような課題がでていたかについては把握していない。小学校の統合については、今まで経験しているが、大きな問題が起きたということは聞いていない。小さな学校から統合して、友達が増えたという声は校長を通じて聞いている。中学校の統合は、小学校とは違い思春期にあり、人間関係をどう作っていくのかということなどでは、課題がないわけではないと思うので、近隣の市町教育委員会に問い合わせたい。

⑰ 松代の特色が何れは無くなってしまふのは寂しい。通学時間が長くなること。小さな学校から大きな学校へ移ることで、子どもたちにストレスが大きくなると思う。もし統合になった場合は、子どもたちに対する配慮が必要になる。

[答] 通学時間や子どもたちがどのようなストレスを抱えるかについて、充分注意しながら検討を進めたい。

⑱ スクールバスに関して、通学時間が長くなることと登下校の時間が提示されているが、松代地域内では学生だけでなく一般の利用実績が出ていると思うが、学生の時間に合わせるのかまたは、別便を運行するのか。増便した場合のバスと運転手の確保をしているのか。

[答] スクールバス関係については、まだそこまでの議論はしていない。実際に時間を早めることで、住民の皆さんが使いにくいという意見もいただいているので、一つの課題としながら今後全体像について組み立

			てをしなければならないと考えている。
--	--	--	--------------------

【松之山地域】

		日時、会場等	主な意見等
松之山地域	日時	11月12日(火) 18:00~19:10	<p>① 学校の部活動で、現在、複数の中学校が合同でチームを組んで出場しているものはあるようだが、人数そのものを少なくして、学校単独で参加できるような種目はあるのか。 [答] 複数校で組むものしかない現状である。</p> <p>② 中学校の再編では、通学距離が長くなる。計画の中で、通学が一番遠くなる場所は、松代中の南中への通学になるか。 [答] 松代地域では、この通学距離についてが一番の課題ではないかと受け止めている。松代の中で奥に位置する子どもたちが南中に通うとなると、1時間近くかかることになり、往復で約2時間となると、子どもたちの負担感が大きくなるのが心配であるという、保護者の方からのお声をいただいているところである。松代地域で通学に利用している市営バスの運行について、できるだけ子どもたちに負担がかからないよう、通学に重点を置いた運行のあり方について研究の余地があると思っているので、できるだけ時間のかからない方法を検討していきたいと考えている。</p> <p>③ 方針の19ページに、小規模の小中一貫校の設置には課題があると記載されている。今後の市内の他地域における小中一貫校について、考えをお聞かせ願う。 [答] 現在、本市における小中一貫校はまつのやま学園だけである。ほかに、下条小学校と下条中学校は、廊下で繋がっている形となっているが、第2次の方針では、小学校は1学年1学級以上、中学校は2学級以上としており、下条中がこの方針規模に至っていないことから、小中一貫校とすることは考えていない。今後、統合が進み、その中で小・中とも基本方針の規模に達し、小中一貫校ができるようであれば、その時に改めて考えていきたい。当面は、この方針に沿った学区適正化を図っていきたい。</p> <p>④ まつのやま学園は、今回の計画期間中は再編対象外とするところがあるが、生徒数が減って複式となった場合は再編対象となるのか。 [答] 今回の方針検討にあたり、10年間は複式学級の発生は見込まれなかったが、令和12年度、13年度になると、松之山中学校で複式の可能性があるという新たなデータが出てきた。これから先の見通しの中で、地</p>
	会場	まつのやま学園	
	対象	まつのやま学園 ・学校運営協議会 ・保護者	
	人数	25人	

（松之山地域）		<p>域の皆さんがどう考えるか、ご検討いただき、改めてご相談していきたいと考える。松之山地域自治組織の役員会でもお話をさせていただいたが、過去に松之山町時代には、山村留学で都会の子どもたちを受け入れた経緯があり、関わった経験をお持ちの役員さんもおり、東京松之山会という大きな応援団組織のお力もいただきながら、大変なことと思うが、子どもの数を増やす取組みをご検討いただければありがたいところである。</p> <p>⑤ 方針の18ページに学区外就学の検討とあるが、現在の学区外就学の許可条件と、検討している内容について伺う。 [答] 現在の許可条件は、特別支援学級への入級、転居や転居予定による事情、留守家庭による放課後児童クラブの利用、病気等による通院の利便性、いじめや不登校に対する教育的配慮、すでに学区外就学の兄弟がいる、小中一貫校まつのやま学園への入学など、十数項目ある。新たに検討したものは、平成29年度に倉俣小が田沢小に統合した際、統合する1年前に新1年生になる児童の保護者から相談があり、田沢小への学区外就学を認めた経緯があり、この度、統合が決まった場合、1年前に統合先の学校へ学区外就学できることを明文化した。</p> <p>⑥ お願いになるが、以前、小学校の統合を検討した際、地域や保護者からの質問に対して返答がなかったことが多々あった。しっかりと地元に戻答してほしい。 [答] 質問いただいたのが教育委員会や学校であれば、しっかりお返しした上での議論の積み重ねが大事と考える。しっかりとした対応に努めていきたい。</p> <p>⑦ これから学校にあがる保護者の方が関心があると思う。保育園にも情報を伝えてほしい。 [答] 学校だけでなく、未就学児の保護者の皆さんへの方針説明も大事であると思っている。松之山地域での地域向け説明会の日程は未定であるため、日程が決まったら、改めて未就学児の保護者の皆さんへご案内し、出席いただければありがたいと思っている。</p> <p>⑧ この方針では、松代中は南中へととなっているが、松代中がまつのやま学園にという可能性はないのか。 [答] 昨日の松代公民館での説明会でも同様のご質問をいただいた。今の方針の中には無い形なので、両地域の皆さんが良く話し合っ、そういう方向性、体制が出てくるのであれば、教育委員会としても検討していかねばならないと考える。現状では、この方針が最善と考えているため、説明会を繰り返させていたっているが、より良いアイデアがあれば、改めて検討させていただくという姿勢である。説明会がある程度一巡した段階で、教育委員会として総括していきたいと考えている。</p> <p>⑨ 学校教育では地域学習に力を入れていると思うが、統合すると学区が広い地域となって、自分自身が生まれ育った身近な地域の学習が、時間的にも物理的にも減ることになると思うが、市ではどう考えるか。 [答] 地域学習、ふるさと学習は、今の教育目標の中でしっかりと受け止めて行わなければならないと考えている。密度が若干、薄まることは確かであると思うが、広くなった中で広いなりに、地域の宝が改めて発見できるのではないかと。広くなった中で引き続き、地域学習、ふるさと学習をやっていききたいと考えてい</p>
---------	--	--

<p>(松之山地域)</p>			<p>る。広い中での地域の皆さんの支援が不可欠であるので、新しい体制での学校運営協議会でもしっかり議論いただき、ふるさと教育について取り組んでいきたい。</p> <p>⑩ 情報提供として、隣接している上越市大島区でも生徒の減少は大きな悩みである中、まつのやま学園に興味を持っており、PTAの方が視察にも来ている。大島区では学校再編計画は無いが、ひとつの自治体の問題としてではなく、なんとかうまくいかないものかとの思いがある。10年先を見て、希望ある計画になると良いなという思いである。</p> <p>[答] 実際には過疎地域同士の自治体で、組合立という学校を作るやり方がある。また、区域外就学という形で、仮に大島区の子どもを十日町市の学校に通わせたいということであれば、教育委員会同士の協議の中で子どもを受け入れるというやり方もある。</p>
----------------	--	--	---